

「福音の伝達は日常の中で」

聖三一コミュニティ教会 足立 宏



そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。

Ⅱ テモテ 1・5 (新改訳)

最近よく思うことがある。どうして僕は信仰を持っただろうか。その答えの一つは、両親の祈りが積まれていたことは疑えない。パスターキッズとして育った僕は、天の邪鬼で、あまり良い子ではなかった。小学校の時、CSでイエス様が百番なんて歌っていた。また父からよく言われたのは、「よその牧師の子は親を助けている。協力しないなら、邪魔をするな」。そうそう、来ていた友達に、俺の言うことを聞けないなら教会に来るなと簡単に言うてしまうほど、散らしていた。そんなわたくしが牧師となって23年、よくここまで続いてきたと思う。そんな権太を主は愛してくださったのだ。

が、人としての影響を両親、特に母親からも受けていたのは間違いない。

昨年ネットで調べ物をしていたら、一冊の本が目に入り込んだ。「子ども聖書絵物語」(ケネス・N・テイラー著)。中古で優良と言う評価。しかも安価だったので取り寄せた。ほとんど新品同様。中を見て記憶が蘇ってきた。僕が六、七歳の頃、夜寝床で母親がこの本の読み聞かせをしていていた。その書の絵がとても綺麗で、40数年経った今でも鮮明に覚えている。時折宏牧師の説教は描写的だとほめてくれたさる信徒さんがおられるが、僕のみことば体験は母親の読み聞かせにあったことを五十年代になって痛感している。つまり口移しで、みことばの種が時かれ、知らず知らずのうちに、魂の深いところで受け取っていたのだらう。高校生の時は相当反発した(母親「回入院」)が、幼児のとき家庭で関係が築かれていたから、その恵みが今大きな力となっている。みことばをイメージして、伝える力を親が培ってくれていたのだ。

ところでこの話をCS教師会でさらっと語ったら、ひとりの婦人がキリ書に行き、「親と子の聖書」(キャスリン・ヴォス著)を買ってきて、毎晩お孫さんに読み聞かせているそうだった。彼も二十年後、みことばに仕える働き人になる関わりが日常の中で行われている。

牧羊者

目次

巻頭言	1
目次	2
教師養成講座	3
「♪さんび・・・まず、あなたがいきいき！」	3
キリストの教え ▲ 7 / 6 ～ 7 / 13 ▼	7
旧約②「ノア・族長」 ▲ 7 / 20 ～ 9 / 7 ▼	19
キリストのみわざ ▲ 9 / 14 ～ 9 / 28 ▼	67
牧羊ひろば（広島栄光教会）	85
カリキュラム	89
「牧羊者」の購読・利用について	90
おわりに	90

〔凡例〕

1. 原語について：ギリシャ語は〔ギ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について
こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」（以上、日本キリスト教
団出版局）、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」（日本ホーリネス教団出
版局）、イン：「教会学校さんびか」（インマヌエル教会学校部）、ふ：「ふくいん子
どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」（以
上、日本児童福音伝道協会）、PW：「プレイズワールド」（リビングプレイズ）

ミセス・グレースからあなたに ♪さんび・・・まず、あなたがいきいき！

神戸中央教会 田中恵子



賛美を通してCS教師養成講座というちょっと難しいお題を頂き、どのようにさせていただこうかなと考えている時、そうや！ ♪さんび・・・まず、あなたがいきいき！ というタイトルが響いてきました。これからいくつかに分けてアプローチしていきます。どうぞよろしくお願いします。

さて、私は、どんな奉仕でも、まずその奉仕に携わる人が、心の底から喜ぶものでなくてはと考えます。そこで本題の賛美に入る前にいくつかの点検作業をしてみたいと思うのです。

車といっしょかしら？ 何か月点検つてありますよね。よろしくお付き合ってください。

いきいきと奉仕をするために・・・私と一緒に点検し

てみませんか？

点検1 〈体は物語る〉



日曜日の朝は何時におめざめ？

日曜日の朝、あなたの顔は晴れやかですか？ それとも

険しい、艶のない顔をしていますか？ 鏡をのぞいてみましょう。・・・心を見るためです。何の奉仕でもエネルギーのいることですが、教会学校の教師は、

結構体力がいりますね。飛びついてくる子どももいますし、すねて部屋の片隅から出てこない子も。パワー全開

でやってくる子、朝、お母さんに怒られて泣き泣き出てきた子、メッセージ中、さまざまなアクションで合いの

手を入れてくる子、本当にいろんな背景をもつ子どもたちですが、そんな子どもたちをしつかりうけとめる力を私たちは、持ち合わせる必要があります。

あなたは体力がありますか？ 日曜日は、特にスケジュールに追いまくられるのではなく、いつもより早く起きて、こちらから1日のスケジュールを切り盛りできるといいですね。

さあ、しつかり朝食を食べて、備えましょう。体が元気、心が元気でないご奉仕はできませんね。

点検2 へあなたを押し出すものは？



あなたはご奉仕を喜んでいますか？ あなたにとつて特権ですか？ 義務ですか？

先日、CS教師研修会で講師のK先生が受講生に尋ねられました。

あなたのCSのご奉仕を始めたきっかけは何ですか？

私は、教会の娘だったから、必然的にやるものだと思うていたからと答えました。

そう、やるもの！ 実際、牧会している両親が助けるのが当たり前と思っていましたから、中学生から教会の奏楽、高校生からCS教師のヘルパーをしていました。大学生のころは、伝道師の先生と中学生を担当していました。

その頃、毎週メッセージを準備し、必死になって語っていたことを懐かしく思い出します。あの時、来ていた10数名の中学生、だった子どもたちの中の数人は、神様につながることで、今でも、母教会の核になってよき働きをしてくれています。うれしい！！

一人の魂を神様につなげる手助けをする仕事、これは特権なのだと思います。

また、一人の人の人生に関わっていくこと、これも特権だと思えます。

私たちは自分の弱さを知っています。どんなところから救っていただいたかを知っています。こんなものであるにも関わらず、まず、「神様が私を愛してくださった」。この事実が、私を、皆さんを、神様の働きのために押し出してくれるのです。

神様の一方的な愛に感謝して、私も何かさせていた

きたいと思うのはごく自然の事でしよう。全く神様は不思議にそのタイミングをよくご存知で、良い時に良い人たちを通してアプローチされます。そのタイミングはとても素晴らしいものです。

「ね、教会学校でお手伝いしてみない?」「ね、礼拝で奏楽の奉仕お願いできないかしら?」と、声をかけられた方も多いと思います。

どのような奉仕も神様の愛に押し出されて神様の愛への応答としてなすべきだと思います。ですから前述のように必然的にやるものではなく、させていただくものなのです。

各自、ゆだねられているものは違うわけですが、今一度、ゆだねられたものをもって磨いて、ゆだねてくださった方の思いに沿うように、つまりは主の用に間に合うものとなるというクリスチャンの奉仕のあり方を考える必要があると思うのです。

点検3 〈先生はえ・ら・い??〉



教会学校教師になって何年ですとよく聞きます。とか

く師と名のつく人は・・・いやこの論議はやめときましよう。

ただ、忘れてはならないのは、神様から見れば、奉仕に長短、優劣はなく、みんな平等な存在です。私たちはみんな神様によって引き出され、赦されたもの、神様を礼拝する民です。はじめて教師になって子どもたちの前に立ったときのあのドキドキ感をいつも思い出しましよう。奉仕に長短、優劣はなく、神様にあって「えらい」人はないのです。

変に経験がものをいい、鼻が天井を向く人もあるようですが、パウロが言いましたように、誇るなら主を誇ろうです。十字架のイエス様を見上げるとき、私たちは謙遜にならざるを得ないですね。ですから、私たちは仕えるものになるのは当然だと思うのです。

点検4 〈いきいきの秘訣は?〉



さて、具体的にいきいきと仕える人となるために！詩篇100篇を読みましょう。

全地よ、主にむかつて喜ばしき声をあげよ。

喜びをもって主に仕えよ。

歌いつつ、そのみ前にきたれ。

主こそ神であることを知れ。

われらを造られたものは主であつて、

われらは主のものである。

われらはその民、その牧の羊である。

感謝しつつ、その門に入り、

ほめたたえつつ、その大庭に入れ。

主に感謝し、そのみ名をほめまつれ。

主は恵みふかく、そのいつくしみはかぎりなく、

そのまことはよろず代に及ぶからである。

詩篇100篇

ここに喜び、仕え、歌い、進み出て、主の庭に入り、

感謝し、たたえる、という動詞が挙げられています。こ

れは皆、礼拝の姿勢を表し教えています。ここには、不

満をもちつつ、自分を卑下しながら、人をねたみ、恨み

ながら罪を持ったまま・・・とは書いてありません。人

間ですから弱さも醜さも、恐れも癒されたい傷も、重荷

もいっぱい抱えています。が、神様は、それら全てを知つてくださった上で感謝の歌をうたつて主の門に進み、賛美の歌をうたつて主の庭に入れといわれるのです。どんな困難に思えることでもゆだねて感謝し、大胆に主に、主の門に近づき、進むのです。そして主の庭に入るときには、感謝に溢れて賛美の歌を歌いなさいといわれるのです。というより、それまで心を占領していたことはすべて感謝に、賛美に変えられていくことをこのみ言葉は教えているのです。そして、それは神様のみことだと教えています。

いきいきの秘訣は、神様にあるのです。私が、自分の力ではなく、神様の愛によって、賛美させてくださる方によって、私たちは喜ぶものと造り変えられていることを知ります。



今回は、♪さんび・・・まず、あなたがいきいき！

第二弾、具体的に賛美によって教えられていきます。ご期待ください。

聖書 マタイ5・17～32 テーマ テーマ 心の中の罪

序論

(金井信生)

イエスは「律法を成就（完成）する者」として来られました。律法そのものが間違っていたり、不足していたわけではありません。ただ、人間の側で、正しく受け止めず、また実行する心がなかなか伴わなかったのです。

一、律法の目的

律法は、神が定めて人に与えられたものです。へ一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされる」とイエスの言葉にあるように、完全なものです。

律法が与えられた目的は、神の国に入り、そこに生きるための義を示すものです。ですから、律法はアブラハムではなく、モーセに与えられました。エジプトから救い出された民が、これから神の民として歩んでいくためです。

また、神の民に与えられたということは、個人的に義を追い求めるだけでなく、お互いの人間関係の中で、神

の定められた義を全うしていかなければならないということでした。

「義」とは、神がご覧になってよしとされるかどうかの基準です。この「神がご覧になる」というところを、人間はしばしば取り違えて、自分の見る行いで判断してしまいがちです。しかし、神がご覧になれるのは、私たちの心です。つまり、神の義とは、私たちが何かをすること、しないことよりも、神の前に正しい態度をとっているかどうかなのです。

イエスが「あなたがたの義が律法学者やパリサイ人の義にまさっていないければ」と言われたのは、善い行いとその結果について競争をしなさいと言われたものではありません。律法学者やパリサイ人が、神の前よりも人の前で正しくあることばかり求めていたことに対して、別の生き方を目指しなさいと勧められたのです。

二、律法を超えて

律法学者やパリサイ人に代表されるユダヤ人は、律法を外面的にとらえました。しかしイエスは、外に現れる行動の前に、心の内にある動機を探られます。

手を出さなくても、心の中に憎しみがあふれかえっていったら、それは神の尊ぶ存在を否定することにおいて、殺すことと同じ罪なのです。情欲の思いで異性を見るなら、それは心に向けるべき方向が間違っている点で、姦淫^{いん}の罪を犯しているのです。

この律法の光に照らしてみれば、どんな人も自分の罪を認めざるを得ません。また心の中まで裁かれるとしたら、だれも正しくあり得ないことが明らかです。

そこで罪に絶望する時に、律法を与えられた神に立ち帰らなければなりません。かつてパリサイ人の一員だったパウロは、キリストに救われてから、律法は「キリストに連れて行く養育掛」(ガラテヤ3・24)であることがわかりました。律法を自分流に理解するだけでは、神に近づこうとするのはできないばかりか、かえって神の備えられた唯一の救いであるキリストを拒むことになりま

三、心に義をまっとうされる方

《祭壇に供え物》をささげるのは、神に近づくため

です。その時に〈兄弟が自分に対して何かうらみをいんでいることを、そこで思い出したなら〉、どんなに立派なささげものを用意していても、それを持つていく当人が神の前にふさわしくないとイエスは言われます。

こちらは何とも思っていないくても、向こうが私を恨んでいることを知っていたら、先手を打ってこちらから仲直りし、得た和解を神のもとに携えてきなさい、それこそ神が最も喜ばれささげものだといエスは教えられました。罪人であった私たちのためにひとり子を与えて和解の道を開いてくださった神の心にいちばん近いからです。

律法は神の御心そのものです。イエスが律法を成就すると言われたのは、御自身がそのように生涯を送られただけでなく、私たちと共にいて御心になう歩みに導くためでした。

結論

私たちは行いにも心にも罪をもっています。キリストによって罪赦され、心の内まできよめていただいて、神の民とされた幸いに生きましょう。

研究資料

(宮澤清志)

テキスト

17→20 イエスはまず、ご自身の来臨の目的を、律法や預言者を成就するために来たという(17)。そのうえで、この後語られるイエスと律法との関係に関する誤解を避ける意味で、イエスはこの個所の言葉を語られたのである。

17 律法…を廢する この言葉はマタイの別の個所では「くずされる」(24・2)、「こわす」(26・61)などと訳される言葉であり、律法を無効なものとして扱うという意味である。成就する(キ)プレーローサイ)「完成する」という意味に訳す人もいる。形だけもっともらしく実行している人たちと違って、徹底してその精神を満たすところまで行い抜く、という意味が背後にある。

18 律法の一点、一画 一点とは、ヘブル語の中の一画小さな文字であり、一画とは、ヘブル語の文字の角の部分を表す。いずれにしても、律法の中のどんな小さな部分もすべてがそのまま残るという意味。

20 あなたがたの義が… この部分をどう理解するか

は、私たちの頭を悩ませる個所の一つであろう。律法学者とは、律法を解釈し、教え、法廷で裁判を行う人々であった。一方、パリサイ人 とはその律法を厳格に守ろうとした人々であった。では、彼らにまさる義とはどのような義、天国にはいる義とは、どのような義なのであろうか。「義」という言葉はマタイにとつては大きな関心事であったと推測される(「義」という言葉はマルコ0回、ルカ1回に対して、マタイは7回用いられている)。この個所の意味は、律法学者・パリサイ人の義とキリスト者の義とを量的に比較して、またはある水準を設定して論じているのではない(23章参照)。「義」とは、人間の、神の前における正しい態度を指す言葉であり、マタイにおいては特にその態度が、その人の生き方においても主の前にも認められなければならないと説くのである。

21→26 殺すことについて 「殺すな」(21a)という律法は、出エジプト20・13に存在する。

21 殺す者は裁判を受けねばならない この言葉は、直後の「といわれていた」とも語られるように、ユダヤ人の口頭伝承であろうと考えられる。裁判 地上での裁判

のことか、おわりの日の裁きのことかは不明。

22 旧約律法における秩序に対して、神の国の真の秩序をのべる。兄弟 ここでは同胞のユダヤ人を指す言葉のようである。しかし、もちろん狭い意味の同胞を指すのではなく、人間一般をさす言葉であろう。

23 26 神の国の律法理解は、更に進んで「和解」を促す律法理解へと導かれる。しかも、この個所で問われていることは、相手方が自分に対して反感を持っている場合(23)であり、前節までの事柄からは更にハードルが上がっている。しかも、その事柄に関する和解は、礼拝に先立つのである(24)。

24 まず行つて 和解の努力を何にもましてするように、という勧めの言葉。

26 コドラント ルカの並行記事には「レプタ」とある。いずれにしても、貨幣の最小単位であり、どんなに小さな負債であつても、という意味。

27 32 姦淫^{かんいん}について 「姦淫するな」(27a)という律法は、出エジプト20・14に存在する。

28 見る チャラツと見る、見える、という意味よりも、むしろ、じつと見る、というニュアンスである。みだら

な思いをもってじつと見る、自らの意志が既に働いていることを示す言葉である。

29 30 前節において、イエスは姦淫を、人間の罪の性質や心の中の問題であると解釈した。同時にこの節においては、その解釈をさらに発展させて、このような罪を犯させるものを捨てるようにと語られた。ここにはイエスの罪に対する断固とした態度が示されており、特に旧約時代より続く預言者の戦いを継承するイエスの姿が垣間見える。捨てる(る)(29 30)直訳は「切り離し、投げ捨てる」こと。非常に厳しい言葉である。

31 32 離婚に関して 註解者によつてはこの個所を新しい段落として取り上げる人もいる。しかし、姦淫の律法を扱っているという点では前節までの流れの中で理解することもできる。

31 妻を出す者は離婚状を渡せ 申命記24・1による。当時のユダヤ社会は、男性のみに離婚する権利を認める。

32 不品行 婚前ないし結婚後のあらゆる性的な不法行為を指すものと思われる。

参考図書 A. T. Robertson, 「Word Pictures in the New Testament I」(BROADMAN) 他

聖書

マタイ5・17〜32

タイトル

形だけじゃなく、心をきれいに

暗唱聖句

兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。マタイ5・22

目 標

内面の罪を知り、キリストによつて心の内をきよめて頂く。

導入

(飯田勝彦)

7月に入りました。もう少しで、みんなが楽しみにしている夏休み！ いろいろな計画をしている人もいるでしょうね。これから暑さが厳しくなってきます。熱中症などにならないように、健康管理には十分気を付けましょう。

暑いと集中力がなくなってきました。学校の授業も約1時間座って、先生の話を聞くのは大変でしょう。でも先生も暑い中、一生懸命にみんなのために教えてくださっています。イエス様も、皆さんが幸せになるように熱心に言葉を通して教えてください。イエス様の声に耳を傾けましょう。

イエス様が求めておられること

イエス様は二千年前、弟子たちに、「心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう」、「あなたがたは世の光である」と教えられました。でもこれは、今を生きている皆さんにも言われていることです。イエス様は、皆さんが清い心を持ち、神様を見る者であって欲しいと願っておられます。また、皆さんがイエス様の光を多くの人たちに示し、神様が素晴らしいことを表して欲しいと願っておられます。

そしてイエス様は、今日のみ言葉を通して皆さんが神様の前に正しく生きて欲しいと願っておられます。皆さんは十戒を知っているでしょう。これは、神様の前に正しく生きて行くためのルールです。十戒には「人を殺してはならない」、「盗んではならない」などがあります。もし、これを破ったら人は互いに傷つけあうことになりますし、幸せに生活することが出来なくなります。それどころか、十戒を破る人は罪人で、神様の裁きを受けなければならぬのです。昔の律法学者やパリサイ人たちは、神様とのルールを真剣に守ろうとしましたが、形だけになっていました。

イエス様は、皆さんに律法学者やパリサイ人たちのような形だけの生き方にならないようにと願っておられます。

イエス様は、心を見られる

皆さんは、毎週教会学校に来て神様を礼拝しています。これは本当に素晴らしいことです。でも、もし身体は教会学校にあっても気持ちがそこになかったら、形だけの礼拝になっていないでしょうか。それは、神様に喜ばれることでしょうか。

神様は「殺してはならない」と言われました。皆さんは人を殺してはいけません。でも、兄弟ゲンカをして「お兄ちゃんなんて、いなくなってしまうばい」とか心の中で思ったなら、それは人殺しをしたことになる。イエス様は言われます。

イエス様は、私たちの心の思いを見ておられます。いくら外がよくても心が汚れているなら、神様の前に正しく生きることができません。もし、心に「殺してやりたばい」とか「死ねば良いのに」、「あの人なんていなくなればよい」などの殺意があるなら、それが言葉や行動になって出てきます。

ですから、神様の前に正しく、幸せに生活するためには、心がよくなければいけません。皆さんの心はどうですか。心の中でたくさん罪を犯していませんか。心の中を神様や人に見せることができますか？ もし、そのような思いをもっていたら、苦しいのは自分自身です。神様は、皆さんが苦しむのを願っておられません。

イエス様は心をきよめてくださる

私たちは、だれも自分の心をきよめることは出来ません。それができるのはイエス様だけです。

イエス様は、私たちの心の罪、汚れを取り除き、神様の前に正しく生きることができるようになってください。それは、十字架と復活によつてです。私たちの罪のために十字架で命を投げ出され、三日目に復活されたイエス様を救い主として信じ続けましょう。そうすれば、私たちの心はきよくされ続けて行くからです。

まとめ

イエス様によつて心がきよくされた人だけが神様の前に正しく生きていくことができます。形だけではなく、心をきれいにされましょう。

♪じゅうじか わが力♪ (ホ115)

聖書 マタイ6・7・13 テーマ 主の祈り

序論

(金井信生)

「主の祈り」は、イエスが弟子たちに教えられた祈りのお手本です。前半は神に関して、後半は私たちの必要に関して、いずれも常におぼえて祈るべきことが教えられています。

一、呼びかけ

〈天にいますわれらの父よ〉との呼びかけは、私たちがいつも、神を意識した生活を送る土台です。〈天〉は、目に見えなくても、どこでも、どんな状況でも仰ぐことのできる神のおられるところです。また〈われら〉とあるのは、主の祈りが個人的ではなく、神を父と呼ぶことの許された教会の、共同の祈りであることを示します。

〈父〉と子は、命の関係です。祈りは呼吸であるとも言われますが、「天の父よ」と呼ぶことに命が吹き込まれます。また父と子との関係は人生の初めから存在するものですから、この呼びかけは帰ってきた者の告白というこ

ともできます。

二、神の栄光を求めて祈る

呼びかけに続く第一の祈りは、神の栄光が現れるように求める祈りです。〈御名〉とは、神ご自身の性質と力であり、神が神であることをまず告白します。そして、もし忘れて背いていれば悔い改め、神の守りと助けを必要としていることをおぼえてへりくだるのです。

第二は、〈御国〉を求める祈りです。〈御国〉とは、神が愛をもって導き守り、祝福される世界です。人間の力によって建てられるものではなく、上からの救いであり、地上と人性のすべての問題が解決されることです。この世界は、目に見えない、人の心の中に、そして交わりの中に生まれ、目に見える形で表されていきます。そして、世の終わりに永遠の御国が完成することを聖書は約束しています。

第三の祈りは〈みこころ〉を求める祈りです。〈御国〉が目に見える領域ではないのは、そこが〈みこころ〉が行われるところだからです。〈天〉において行われている〈みこころ〉が地において満たされていないのは、人

間の罪の現実があるからです。

神の造られた世界を、〈みこころ〉に従って治める務めが人間には与えられています。これに背いて世界を乱してしまいました。キリストの救いにあずかった者は、聖書を通して〈みこころ〉を知り、〈御国〉の民の一人として、互いに協力して〈御国〉が家庭にも職場や学校、地域にも実現していくように努める使命があります。

三、霊と心と体の必要のために祈る

人間についての第一の祈りは、体の求める必要です。「何を食べようか、何を着ようかと思わずらうな」と、神はわたしたちの必要を知っておられます。その上で、求め、与えられる関係の中で、神との交わりに感謝と喜びがあふれてくるのです。

また「あれが食べたい、これが欲しい」ではなく、自分にとって最善のものを神が備えてくださっている信頼も込めての祈りです。

次に、〈負債をもおゆるしください〉とは、心にとがめのある罪のことです。どんなに自分の過ちについて、おわびをし、償いをして、神の前にゆるされた喜びと確

信がなければ、いつまでも不安と恐れは心から去りません。十字架の救いを確信して祈りましょう。

神にゆるされた幸いは、人をゆるすことによって、なお恵みが深くなります。わたしたちが人の罪をゆるすとき、神がわたしをゆるすためにどれほどの忍耐と犠牲を払ってくださったかがわかります。そして人をゆるすことのできる自分に変えられたことに、なお主の救いの豊かさをおぼえるのです。

最後は、霊が守られることを求める祈りです。試練や誘惑は、わたしたちに神に対する不信や疑いを植え付け、神との交わりから遠ざけようとしています。〈悪しき者〉には人間の知識や努力では勝てません。戦いがあることを覚悟し、油断しないことと共に、主イエスがわたしを守ってくださる信仰に立ち、信頼して委ねることです。

結論

「主の祈り」は、わたしたちの祈りの基本です。一つ一つの言葉に、自分の思いを込めて、主との交わりを喜びましょう。

研究資料

(小平徳行)

ここは「主の祈り」と呼ばれ、イエスが祈りの態度と祈るべき内容について教えている所である。私たちはこの祈りをささげるだけでなく、意味を味わいつつ、日々の生活において、自分の信仰として歩みたい。主の祈りの前半は神に関するもので、後半は人の必要に関するものである。この順序は大切である。

テキスト

7-8 ここでイエスは熱心な祈りを否定されたのではなく、無意味なくり返しは不必要であることを言われた。父なる神は私たちの必要はご存じであるから、信頼を持って祈るべきことを教えている。

9 父(✠パテール)アラム語では「アバ」であり、幼児が父親に話しかける時の言葉。神に対して最も深い親しみを表す「アバ」という言葉をもって祈るように教えたのはイエスが初めてであった。神は恵み深い父親として一人一人に限りない愛と関心を持ち、喜んでその祈りを聴こうとしているお方である(マタイ7・11)。われらの主の祈りは個人の祈りだけでなく教会の祈りでもある。

る。したがって、この祈りは神の家族を、とりなしの祈りと配慮をもって愛することを教えている。御名があがめられますように これは最も重要で基本的な求めであり、信仰生活の秘訣である。御名 神の本質、權威、立場などあらゆる面を含めた「神ご自身」を指す。あがめ(る)(✠ハギアゾー)は「聖別する」の意。したがってこれは、神が全被造物から区別され、全世界が神を尊び、賛美し、礼拝し、感謝するようにという求めである。

10 御国がきますように キリスト者は、やがて来る神の国の先取りとして、現在、キリストの豊かな支配を味わっている。この祈りは神の支配が自分自身のうちに拡大されること、そして宣教の進展により、人々が回心すること、さらにキリストが再臨され、天の御国が完成することを求める祈りである。みこころが行われますように 地上で起こるすべての事柄が、神の望み通りに運ぶようにとの願いである。私たちは、自分を捨てずには、神のみこころを行うことを真剣に求めることはできない。これは従順を学ぶ祈りであり、イエスのゲツセマネの祈りにも共通する。ここまでの神に関わる祈りは、人の生き方を根本的に変えてしまう。この祈りを真実にさ

さげるためには、祈りの一つ一つに「私のうちに、私を通して」と付け加え、自らを神にささげるべきである。

11 わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください 私たちはこの祈りにおいて、自分のいのちと全宇宙が神に支えられていることを覚えることが大切である。物質的な必要のために祈ることは自らが神に依存していることを認め、神をあがめることになるのである。日ごとの食物 その日、その日に必要な食物。かつて神はご自身の民のために、荒野で40年間マナを備えられ、毎日の必要を満たされた。ここでは食物に限らず、生活に必要なすべてを含んでいると考えてよい。神は霊的な必要と同様に物質的な必要も配慮してくださるお方である。

12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をおゆるしてください 負債(ギ)オフェイレーマ)は借金に対して使われたが、次第に、神に対して負い目をもっているという意味で使われるようになった。他の福音書では、「罪」(ギ)ハマルティア)が使われている(ルカ11・4)。クリスチャンは信仰によって義と認められたが、なお罪の赦しを必要としている者である(ヨハネ13・10)。ゆるしましたように この動詞

の時は不定過去であり、すでに完全に赦し、もはや何のこだわりもないというニュアンスが込められている。イエスは他人の罪を赦すべきことを14・15節や、たとえば話でも語っている(マタイ18・21・35)。神の赦しの恵みを深く味わった者は他者の罪を赦すことができる。

13 わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者から救いください 私たちがこの祈りをささげなければならぬのは、常に私たちが危険にさらされており(1ペテロ5・8)、罪や悪に対して弱く、自分の力や知恵で打ち勝つことはできないからである。これは自分の弱さを認め、救って下さる主に信頼する祈りである。

新改訳聖書の13節の最後には「国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン」と記載されている。最古の写本ではこの句は欠けているが、初代教会は、主の祈りを公の礼拝にふさわしく整えるため、かなり早い時期にこの頌栄を付け加えた。私たちが祈り求めるのは主の御力に根拠があるためである。

参考図書 中澤啓介『マタイの福音書註解(上)』(いのちのことば社)、J・I・パッカー『私たちの主の祈り』(いのちのことば社) 他

聖書

マタイ6・7～13

タイトル

主の祈り

暗唱聖句

御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。

マタイ6・10

目標

意味を知って「主の祈り」をささげる者となる。

導入

(水野晶子)

2歳のみうちちゃんは、主の祈りを祈れませんでした。でも、3歳以下のお友達が集まる教会の幼稚園で、毎回、主の祈りを聞いているうちに全部お祈りができるようになりました。皆さんは、主の祈りをすらすら祈れますか。今日は主の祈りの意味についてお話します。

呼びかけ

主の祈りはイエス様が弟子たちに教えた祈りです。お祈りのはじめは「天にいますわれらの父よ」と呼びかけます。「天におられる私たちのお父さん」と、子どもがお父さんの所に行って「パパ、お願いがあるの」というように、私たちは恵み深い父なる神様に祈ることができるので

す。神様は私たちの祈りを喜んで聞いてくださいます。

天は空ではなく目には見えませんが、いつでもどこでもどんな状況でも「お父ちゃん」と呼んで仰ぐことができる神様のおられるところです。「天のお父様」とお呼びする度に神様からの命が吹き込まれます。そしてもう一つ大切なことは主の祈りはみんなの祈りでもあります。神様の子どもがみんなでお祈りする共同の祈りです。

神様に向かっての祈り

まず、「御名があがめられますように」と神様の素晴らしいお名前を賛美し、神様の栄光が現れるようにと祈ります。神様の名前は聖、愛、力、強さ、正しさなどの神様の性質を表しています。天と地を創造された力強い方、うそをつかず、罪のない聖なる正しい方、約束を守られる忠実な方、私たちの罪をゆるすためにひとり子イエス様を送り、私たちの身代わりとしてくださった愛の方を心から賛美し礼拝するためにこの祈りをささげます。

「御国がきますように」と、神様を中心にして、みんなが仲良く助け合い、神様の言葉に従って祝福いっぱいの世界が来ますようにと求めます。またイエス様が再び来られた時に完成される神様の御国を待ち望む祈りです。

「みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように」とは、すべてのことが、私たちの思い通りに行われることなく、神様のみこころを知って、神様が望んでおられるようにと祈ることです。

私たちのための祈り

「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください」とは、私たちが生きるために必要なすべてのものをあたえてくださいと祈ることです。私たちは神様の恵みを受けて、今日も感謝して生きることができのです。「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください」とは、神様が私たちの罪をイエス様の十字架の救いによってゆるしてくださいように、私たちが他の人の罪もゆるすことができますようにと祈ることです。

「わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者から救いください」とは、私たちにいつも悪いことをさせようとする悪魔がいるので、神様が私たちを悪い誘いから守り、悪いことから救い出してくださいと祈ることです。これは自分の弱さを認め、神様に信頼する祈りです。

最後に「国と力と栄えとは、とこしえにあなたのもの

だからです。アーメン」と続きます。神様は私たちの祈りを聞いて祈りにこたえることができる方ですと、主を賛美して祈ります。

主の祈りを祈った人

第二次世界大戦の最中、ポーランドのアウシュヴィッツ強制収容所で脱走事件があり、その見せしめのために数人の捕虜が死刑を言い渡されました。その中に、「妻と二人の息子が待っているから助けてくれ」としきりに命乞いをする男の人がいました。それを見て、捕虜のクルベ神父は「私は独身者だから」と身代わりを申し出たので、彼は助かりました。戦争が終わって家に帰ったところが、二人の息子はソ連兵に射殺されていて、彼は心の底からソ連兵を憎み、「あの時死んでいたほうがましだった」とクルベ神父の親切も恨めしく思いました。奥さんは「主の祈り」を毎日一緒に祈ることを提案し、祈っているうちに心の傷がしだいにいやされ、穏やかな生涯を送ったということです。（ショートメッセージ100より）

主の祈りはすばらしいですね。心を込めて毎日祈りましょう。

♪「しゅのいのりを」（こ59）♪

聖書 創世記7・1～24 テーマ ノアの箱舟

序論

(金井信生)

ノアが神の命じられるままに造った箱舟は、世界を滅ぼす大洪水からのただ一つの救いの手段でした。これは、すべての人を滅ぼす罪から救う唯一の道であるキリストの救いを、あらかじめ表す原型といえる出来事でした。ノアは信仰によって神に応答し、滅びから救われました。

一、滅びからの救い

神を畏れ敬う^{おそ}ノアは、神が告げられた「わたしは…わたしの造ったすべての生き物を、地のおもてからぬぐい去ります」との言葉を聞き、恐れをいだき、信じました。

自然の災害に驚かされ、心を痛めることもしばしばですが、まことの神に背き、キリストを受け入れないなら、どんな立派な人でも「自分の罪過と罪によって死んだ者」(エペソ2・1)なのであり、「あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びる」(ルカ13・3、

5) こと、「一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっている」(ヘブル9・27) ことを告げる聖書の厳肅な言葉を聞かなければなりません。

しかし、神の宣告の目的は、私たちを怖がらせるためではなく、救いに招くためです。おどすのではなく、キリストの十字架と復活を信じ、この滅びから先に救われた平安と喜びをもって真理を大胆に語らせていただきます。

二、神の備えられた救いの道

ノアは神が命じられるままに箱舟を造りました。また「箱舟にはいりなさい」と命じられて、従いました。世界を滅ぼすほどの大洪水に、人間の知恵や力は通用せず、神の備えられる手段を選び、定められた時に従うことが最善だからです。

ノアとその家族が箱舟に入ると、動物たちが「ノアのもとにきて」箱舟に入りました。先に神が箱舟を造るように命じられた言葉には「すべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二つずつを箱舟に入れて」(6・19)とありました。どうやって集めるのか、どの一

つがいを選ばいいのかわかりませんでした。でも、言われたように箱舟を造りノアたちが中に入ると、神の御手が働いてちゃんと動物たちが連れてこられました。

十字架による救いも、「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」(使16・31)と約束されています。いっとうやって救われるのは主に委ねて、まず福音に触れた「私」が信じ従っていくことです。あとは神がそれぞれに救いの道を備えておられます。

三、信仰による応答

「ノアはその時代の人々の中で正しく、かつ全き人」(6・9)でした。しかし、神はそれだけでノアを滅びから救うことをなさらず、箱舟を造ることを命じられました。ノアも神の言葉に従うことを通して、「神と共に歩む」姿を家族にもまわりの人にも示しました。

箱舟に入るときもそうです。まだ洪水どころか雨の兆候もない中で、主が命じられるまま箱舟に入っています。神を信じる、キリストを信じるとは、人を恐れないで、ただ神を畏れ、その言葉である聖書を信じることであり、

また神の言葉に従って生きることです。

ノアとその家族、そして動物たちが箱舟に入ると、(主は彼のうしろの戸を閉ざされた)。箱舟は防水のためにアスファルトが全面に塗られています。ただ一か所、外から人の手で塗ることができない戸は、主の手によって閉ざされました。私たちも主から知恵と力が与えられていますから、これを用いて日々の生活を守り、将来に備えています。しかし、最後は主に委ね、従っていかなければ、全き平安は訪れません。永遠に至る確信は、ただ主だけが与えてくださるものです。

イエス・キリストは、私たちに代わって十字架の上で罪のさばきを受けてくださいました。イエスを信じることは、滅びから救い出されて、これからは神の愛の御手に守られて歩み、やがて天の御国に迎え入れられる箱舟に入ることです。感謝してキリストの救いを受けましょう。

結論

私たちを永遠の滅びから救い、罪を清めてくださるキリストを信じ、救われた喜びの生涯に進みましょう。

研究資料

(小平徳行)

箱舟によるノア一家の救いは、イエス・キリストによる救いをあらかじめ示したものである。キリストが再臨について語られたとき、ノアの時代を例にあげて警告を与えられた(マタイ24・37〜39、ルカ17・26〜27)。

テキスト

1 あなたと家族とは ノアの家族も箱舟に入ることが許されたのは、ノアが正しい人であると神に認められたからであった。正しい人 ノアについては「正しく、かつ全き人」と紹介されている(6・9)。「正しい」とは人として神の基準になかったという意味。「全き」とは、完全な、健全な、という意味で、おもに神に対する完全さを指す。罪のない完全ではない。それは神と共に歩む所から来ている。

2 清い獣 清い獣と、清くない獣との区別は具体的に明示されていない。清い獣は種の保存のためだけでなく、いけにえのためでもあった(8・20)。七つずつ…二つずつ 新改訳、新共同訳では「七つがい…一つがい」。本文では「七」「二」と数字のみであり、「七つがい」と

も「七匹」とも解釈できる。清いものは、食用や供え物であったため、多く必要であった。

3 空の鳥 ここでは清いもの、清くないものの区別はされていないが、8・20に「清い鳥」とあることから両者が区別されていたことがわかる。

4 七日の後 神の定めの際の厳粛な宣言であると共に、七日間の猶予でもあった。ここにノアの家族以外にも救われる可能性を与えた神のあわれみ、寛容がある(1ペテロ3・20)。四十日四十夜 文字通りの期間と考えよう。

5 16 ここではノアが神から命じられたようにしたことで、ノアとその家族、動物たちが箱舟に入ったことが繰り返されている。これにより、この場面の重大さと厳粛さを印象付けている。

5 ノアはすべて主が命じられたようにした 箱舟を造る時から、家族とすべての生き物を箱舟に入れるまで、洪水の兆候は見られなかったであろうが、ノアは主に従い、すべてを信仰によって行った(ヘブル11・7)。

9 ノアのもとにきて 動物がノアに連れてこられたのではなく、自発的にノアのもとにきた。かつてアダムのもの

とにすべての生き物が連れてこられた時と同様に(2・19)、神の御手がそこに働いていた。

11 ノアの六百歳の二月十七日 洪水の始まりを正確に記そうとしている。このように日付を記すことにより、この洪水が事実であることを強調している。大いなる淵の源 巨大な地下水源と考えられる。この大洪水は豪雨だけでなく、何らかの地の変動により地下より水が噴出したことにもよることを示している。天の窓が開けて先の「大いなる淵の源」とあわせて、「おおぞらの下の水とおおぞらの上の水」(1・7)を連想させる。

13 その同じ日に箱舟にはいった 神はご自身の民の安全が確保されるまではさばかれない(19・22参照)。

16 主は彼のうしろの戸を閉ざされた ノアの背後から戸が閉められた。箱舟の戸を閉ざしたのは主であることを強調している。これはノア家族の救いのための主の保護の御手であると共に、それ以外の者たちに対しては恵みの門戸が閉ざされ、救いの可能性がなくなったことを示す厳粛な瞬間である(マタイ25・10、ルカ13・25)。

20 山々は全くおおわれた 神は人間が逃れる場所を残されなかった。神が備えられた救いを拒むならば、他に

救いの道はない。

23 ぬぐい去られ(ハ)マーハー 地上の生き物はただ死んだのではなく、ぬぐい去られた。これは、「あるものを他のものから取り去る」という意味から、きよめるという意味にもなる。つまり罪を取り除いて地をきよめるところを強調している。6・7、7・4の成就。Iペテロ3・21では洪水の水は「バプテスマを象徴するもの」としている。つまり、洪水によって罪深い世界は葬られ、箱舟はその中に浮かび上がり、ノア一家は救われた。これは古き人がキリストと共に死にキリストと共に新しいいのちに生きる者としてよみがえることを象徴している。

ノアに対して箱舟に入るようにと言われたのは、罪人に対する神の招きの型である。キリストという箱舟はすでに用意されている。洪水の激しさは神のさばきの激しさを示している。しかしそれにも耐えられる箱舟はキリストによる救いの確かさを思わせる。

参考図書 舟喜信「創世記」『新聖書注解・旧約I』(いのちのことば社)、パゼット・ウィルクス『創世記講演』、A. B. Simpson, 「The Christ in the Bible Commentary Vol.1」他

聖書

創世記7・1～24

タイトル

箱舟に乗り込む！

暗唱聖句

あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。

目 標

箱舟なるキリストを信じ、その救いの中に入る者となる。

創世記7・1

導入

(飯田勝彦)

「♪ピンポンパンポーン♪ ご注意ください。間もなく3番線の列車が発車いたします」「プシュー！ バタン」。「あっ、待って〜！」。皆さんは、列車に間に合うと安心していたら、列車のドアが閉まってしまい乗り遅れたという経験ありませんか？ 電車なら次を待てば良いかもしれませんが。でも、もしそれが1本しかない天国行きの列車ならどうでしょうか。今日は、これと似たノアの箱舟のお話です。

箱舟を備えた神様

今から数千年も前にノアという人がいました。彼は、神様を心から信じ、神様が言われることを守っていました。また、ノアは神様を愛していたのでいつも神様と共に

に生活していたのです。そのようなノアを神様も愛されていました。神様から愛され、また神様を愛する関係って素晴らしいですね。皆さんの毎日はどうでしょうか。

ノアが生活していた時の人たちが皆、神様を愛し神様と共に歩んでいたわけではありませんでした。多くの人たちが神様を無視し、自分勝手に生活していたのです。その結果、人々の心は「あいつの物を盗んでやろう」とか「あいつをいじめてやろう」と、いつも悪いことばかりを考えるようになってしまいました。そのため、罪を犯す人たちがたくさんいたのです。これを神様が見られた時、非常に心を痛められました。神様は、皆さんの心をもいつも見ておられるお方です。皆さんの心や生活には、神様が悲しまれることはないですか？

神様は人の心の様子を見て、人を造られたことを後悔されました。そして、人をすべて洪水によって地上からなくしてしまおうとされたのです。でも、正しい人をも地上から取り去ろうとはされませんでした。神様に忠実であったノアとその家族だけは、救おうとされたのです。神様は、ノアやその家族が助かるために、箱舟を造るよに命じ、箱舟を準備されました。

ノアは神様に言われる通りに箱舟を造り始めました。その箱舟は、高さ約13・5メートル、長さ約135メートル、幅約22・5メートルほどの大きな舟でした。

箱舟であるイエス・キリスト

ノアは、いつ起こるか分からない洪水のために、神様の言われる通り箱舟を造り始めました。神様を信じない人たちは、陸で船を造っているのを見て、恐らく「おかしなやつ」だとバカにしたでしょう。でも、ノアはひたすら箱舟を造ったのです。それが完成したとき、雨が降り始め、それが四十日間も続きました。川や池の水は、見る見る水かさが増し、ついにはあふれ、洪水が起こったのです。ノアは急いで家族や動物たちを箱舟に入れました。その瞬間「ボタン!」、神様が箱舟の戸を閉められました。

ちよつと想像して見て下さい。箱舟に乗れなかった人はどうなったでしょうか。みんな水に流され、死んでしまったのです。

このことは、昔話で終わりません。神様は、み言葉通りにやがて罪を犯している人、逆らう人を裁かれるのです。罪深い私たちは、自力では救われません。ですから、

神様は私たちに助け舟を備えてくださいました。それが、救い主イエス・キリストです。箱舟に乗らなかった人たちが、滅ぼされたように、神様が備えてくださったイエス様を信じない人は、永遠の滅びに向かってしまいます。

しかし、自分の罪を悔い改めてイエス様を救い主と信じるなら、それは箱舟に入った者で神様の裁きから救い出されます。

皆さんは、箱舟であるイエス様の中に入っていますか。それともまだですか。「神様の裁きなんてないよ」「まだ信じなくても大丈夫だ」と思っている人はいませんか。箱舟が造られたのは、洪水が起こるからでした。イエス様が来られたということは、神様の裁きの時が近づいているのです!

まとめ

神様は、皆さんを助けたいと願って、イエス様を与えてくださいました。箱舟であるイエス様を今日、信じて救われましょう。すでに信じている人は、家族の方も一緒に救われるようイエス様を伝えましょう。

♪まことのかみさま♪ (ホ12)

聖書 創世記12・1～9 テーマ アブラハムの旅立ち

序論

(金井信生)

カルデヤ（現在のイラク）のウルに住んでいたアブラハム（最初の名はアブラム）は、主の導きに従ってカナンの地（イスラエル）に移り住みました。主がアブラハムに与えられた祝福の約束は、その子孫がイスラエル民族となるだけでなく、救い主キリストがその中から誕生することです。つまり、神の救いのご計画は、主の言葉を信じ従ったアブラハムから始まっていきました。

主の言葉には「国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい」という命令と「あなたを祝福」するという約束が組になっています。アブラハムは主の約束を信じて、命令にそのまま従います。後に「信仰の父」と呼ばれる生涯の第一歩でした。

一、父の家を離れて

「父の家を離れる」とは、目に見える財産に頼らないで、主の言葉だけに従うということです。アブラハムは

ウルのとどまっていたら、不自由なく暮らすことができたでしょう。しかし、アブラハムが求めたのは、目に見える財産を受け継ぐことではなく、神から祝福されることでした。実際、アブラハムは、移住したカナンので生涯家を建てることなく、天幕住まいでした。地上の宝ではなく、「神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していた」（新共同訳 ヘブル11・10）からです。アブラハムに続いて記されるイサクやヤコブ、またヨセフもそれぞれ、父の遺産ではなく神の祝福を求めて主に従いました。

私たちも文字通りの財産や、時には信仰の遺産を受け継ぐこともあります。しかし、いづれにしても主が「私を祝福しようとしておられる」ことを信じて、待ち望み、み言葉に従う信仰があるでしょうか。

二、わたしが示す地に行きなさい

これも、アブラハムが自分の願いや考えではなく、ただ主の導きに従ったことです。カルデヤ地方は豊かな土地で、その当時、世界の最先端を行く文明・文化の地です。それに比べればカナンは辺境で、人も少ないところ

です。それもアブラハムは「カナン之地」と初めから示されたのではなく、「行く先を知らないで出て行った」（ヘブル11・8）のです。どこに導かれるかが問題ではなく、「わたしが示す地」であれば、どこでも従ったのがアブラハムの信仰です。

わたしたちにとっても、主が示される地とは、豊かであるか、楽かどうかよりも、主が共におられるところであり、やがて帰るべき天の御国への途上にあると確信できるところです。聖書に出てくる信仰者たちは、主が共にいてくださることを、何よりの祝福と受け取り、地上では「旅人であり寄留者」であることを自ら言いあらわし、「天にあるふるさと」を熱望していました（ヘブル11・13～16）。

三、祭壇を築いて、主の名を呼んだ

アブラハムは、カナンへの移住後も何度か住むところを変えますが、いつも、まず祭壇を築き、礼拝をささげています。

この礼拝の姿から教えられるのは、「祝福されたから礼拝する」のではなく、「約束を信じて礼拝する」という

ことです。（あなたを大いなる国民と）すると言われても、アブラハムの正統な子どもはただ一人であり、一つの民族が生み出されるまでには数百年かかりました。またキリストの誕生までは千数百年もたっています。「望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認する信仰」、これもまた神からの祝福です。

また、祭壇を築くのは、主の臨在が確かであり、身近であるので、礼拝を第一にし、主体的に献げる姿です。「すべて主の名を呼ぶ者は救われる」（ヨエル2・32）。主の約束は、アブラハムから始まりました。主は今も、一人一人の名を呼んで「あなたを祝福する」と約束してくださっています。目に見える富に惑わされず、主からの祝福に満たされた生涯に進みましょう。

結論

まことの神を知らないこの世は、自分の利益ばかり求める罪の世界です。その中にあって主の声を聞き、従って、祝福された生涯に進みましょう。

研究資料

(小平徳行)

聖書全巻に貫かれている中心的なテーマの一つは「聖別する神」である。バベルの塔以降、再び罪と混乱に陥った人類を神の救いの恵みに導くために、神はアブラムを聖別された。救いの出来事は神の言葉と人間の信仰と従順によって形づくられる。1〜3節はアブラムの召命、4〜9節は彼の従順について記されている。

テキスト

1 時に主はアブラムに言われた この命令と約束は、使徒7・2〜3によると、彼がハランに住む以前のウルに住んでいた時に語られたことになる。しかし4節によればハランで語られたと考えられる。以上からアブラムがすでにウルで与えられていた命令をハランで再び示されたと考えてよい。**あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ** この命令は徹底した分離を要求している。父の家を離れ土地を手放すとは、生活の保証を手放すことを意味しており、信仰のテストであった。**わたしが表示地** カナンの地の方向であることは分かっていたが、アブラムにとって未知の地であった（ヘブル11・8）。

2 アブラムに対する約束は、アブラム（の子孫） が大きな民となること、そして地上のすべての民族がアブラム（の子孫）によって祝福されることである。**大いなる数** だけでなく、神の前の偉大性も意味している。**国民**（ヘゴイ） 領土と民を含む言葉。一般には異邦人の国々を指すが、ここでは特に他民族と比較してイスラエルの国の偉大性を語るために用いたと考えられる。**祝福の基となる** アブラムへの祝福は、彼だけのものではなく、彼を通して多くの人々に及ぶ。

3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し 人々がアブラムをどのように扱うかによって、彼らの定めが決まってしまうような立場にアブラムは置かれることになった。**地のすべてのやからは、あなたによって祝福される** これは後に、キリストを信じるすべての者（異邦人であっても）が義と認められ、この祝福が及ぶことをあらかじめ示したものである（ガラテヤ3・8）。

4 主が言われたように アブラムの単純率直な従順を表現している。故郷、親族から離れ、行き先が不明確な中で従うことは困難なことである。それにもかかわらず従ったのは、やみくもな行為ではなく、最善をなさる神

への信仰によるものであった。アブラムは現在また将来の生活の保証のすべてを主の御手にゆだねたのである。ハラン「カラン」(使徒7・2)とも言われている。メソポタミヤの都市で商業の中心地、ウル同様、月神を主神とする偶像崇拜の地であった。アブラムの父テラも、偶像崇拜を行っていた(ヨシユア24・2)。

5 すべての財産：携えて もはや戻ることはないという決意の表れ。

6 その地を通って アブラムの旅は、まずカナン地の中部にあるシケムまで入る。さらにベテルとアイの間を通って(8)、南の極限ネゲブまで及ぶ(9)。ヨシユア24・3において、主によってアブラムが「カナンの全地を導き通」ったと言われている。カナンの全土がアブラムに与えられることとし(13・17参照)。シケムシケムはゲリジム山とエバル山の間の谷間にある要地。所(ヘマーコーム) 本来は単に「場所」を意味するが、文脈によって特別な意味を持ちうる。新共同訳では「聖所」と訳されている。モレ 「占うもの、導くもの」の意。テレビンの木 新改訳、新共同訳では「樅の木」。樹齢、数百年〜千年で高さ15メートル位まで成長する。神

木としてカナンの祭儀の中心であったといわれる。アブラムはカナンの宗教の拠点に祭壇を築き、真の神の臨在を示したのである。カナンびとがその地にいた カナンの地は無人の野ではなかった。

7 あなたの子孫に この「子孫」は単数形で、単数の意味にも、複数の意味にも用いられる。これはアブラムの子孫であるユダヤ人を指すが、究極的にはイエス・キリストを指す(ガラテヤ3・16)。「この地を与えます」「わたしに示す地」(1)がここであることを示す。カナンびとがすでに住んでいたことは、神の約束を疑わせるものとなり得たが、神はアブラムを励ますために約束を更新し、強調した。祭壇 約束の地において最初に築かれたのは礼拝の場であった。

8 天幕 地上にあつては旅人、寄留者としてテント暮らしをした。この世は安住の地ではない。これは祭壇と共に彼の生涯を象徴するものである。

9 ネゲブ 「南」と訳されているものもある。現在の死海の南西に広がる乾燥した高地。約束の地の南限。

参考図書 舟喜信「創世記」『新聖書注解・旧約I』、小畑進「創世記講録」(以上のちのことば社)、他

聖書

創世記12・1～9

タイトル

従おう！神様の導きに

暗唱聖句

あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。

創世記12・1

目 標

罪から離別し、神の導きに従って生きる者となる。

導入

(和田 治)

「知らない人について行っではいけません！」って教えてもらったことはありますか？ 大切なことですよ。悪い人の言う通りについて行ったら大変なことになります。でも、絶対に安心してついて行けるお方がおられます。誰だかわかりますか？ そう、全てのものの造り主、天の父なる神様です！ 今日、神様のおっしゃる通りにまっすぐに従った人について学びます。

罪からはなれたアブラム

ある時、神様がアブラムにおっしゃいました。「これから旅に出なさい。親せきや親しい人たちも国も捨てて出かけるのだ。行く先はわたしが教えるから、ただ言われたと

おりにするのだよ」。びっくりするようなご命令ですね！アブラムにとつては、なんと、75歳になるまで住み慣れたところ！ その場所からも親しい人たちからも離れるのは、とつても辛いことだったと思います。なのに神様はどうして、アブラムに「そこを出なさい、すべてを捨てて！」とおっしゃったのでしょうか。

実は、それまでアブラムが住んでいた国には、人間が作った偽物の神、偶像がいっぱいあったんです。アブラムのお父さんも、死ぬまで偶像礼拝をしていました。唯一の神様以外のものを神として崇めることは、神様が大変お嫌いになり、お怒りになる罪です。神様はアブラムを罪からきっぱり離れたかったのです。

「偶像礼拝なんて、関係ないよ、やらないよ」。ちょっと待って！ 神様よりもっと大切になっているものがないでしょうか？ もしあるなら、それは偶像のような、神様がお怒りになるものなんですよ。そしてもちろん、偶像礼拝だけが「罪」なのではないですよ。あなたには、悪い事だと分かっているのに、その罪から離れようとせず、ずるずると繰り返していることはいませんか？ いえ、たとえ一回きりで、もうそのことをやめてしまったとしても、そ

の罪を神様に悔い改めていないなら、罪から離れたことにはなりませんね。アブラムが大きな犠牲を払って旅立ったように、私たちも、罪を断ち切って、罪から離れることがとっても大切なのです！

祝福を約束された神様

アブラムに神様が与えになったのは、「命令」だけではありませんでした。「わたしはあなたを祝福する。それだけでなく、あなたによって、ほかの多くの者も祝福されるようになる」。つまり神様は、アブラムが従うなら必ず本当の幸せでいっぱいにしてあげる、と約束してくださったのです。それは、「神様がいつもいっしょにいてくださる、だからわたしは安心です、幸せです！」っていう、本物の安心なんです。これこそ最高の祝福ですね！

このようにアブラムは神様のご命令に従って罪を離れ、祝福を信じて神様のご命令に従いました。やがてアブラムを通して、多くの人々が幸せになりました。私たちも同じなのです。罪を悔い改め、罪から離れ、神様に従うなら、必ず本物の祝福が備えられているのです。

神様に従った太郎君

「おい、また行こうぜ！」六年生の太郎くんは、時々、仲

良し三人組で本屋さんに行きました。漫画を万引きするた
めです。「盗まれるようなところに漫画を置いているお
店の人が馬鹿なんだ」と思って、万引きしても平気でした。
ところが、教会学校に誘われて行き始めてしばらくして、
自分がどんなに罪深い事をしてきたかに気づいたのです。
「神様、悔い改めます。どうか僕の罪をお赦し下さい！」イ
エス様を信じて救われた太郎君は、二人のお友だちも教会
学校に誘いました。お友だちも救われたのです。三人は神
様の導きに従って、本屋さんに行きました。謝って漫画の
お金を全部払うために！ もちろんそれ以来二度と、万引
きしなくなりました…。

まとめ

神様は今も、聖書のみことばを通して、私たちを導いて
おられます。神様が導いてくださる生き方を選び、神様に
従うなら、あなたが祝されるだけでなく、あなたの周りの
みんなも祝されるのです！ さあ、罪をきっぱり捨てて、
まっすぐに神様に従いましょう！ 「神様、あなたにお従
います。どうか導いて下さい！ どこへでも行きます、
なんでも致します！」と献げて生きましましょう！

♪もちいたまえわが主よ♪ (ホ113)

聖書 ヨハネ21・1～14 テーマ 夜明けに立つキリスト

序論

(金井信生)

アブラハムのもとを、三人の旅人が訪れました。この三人は主と御使いであったことが後でわかりますが、アブラハムに、男の子が生まれることを告げました。長年待ち望んでいた主の約束の成就でしたが、アブラハムとサラは、すぐには信じられない思いでした。

主はアブラハムに、もう一つのことを告げられました。それは甥のロトが住むソドムとゴモラの二つの町を、滅ぼそうとしていることでした。

一、ロトの選択

エジプトから戻ってきたアブラハムとロトは、家畜が多かったので、別に暮らすことになり、ロトが選んだのがソドムの町でした(13・11)。ソドムの町は、緑豊かな低地にあり、栄えていましたが、道徳的に非常に乱れた町でした。主は御使いを送って、その町の罪の重さを確かめようとされます。

神は悪を憎み、罪を罰せられるお方です。それは、罪があるところに、傷つけられ苦しんでいた、悲しんでいる人の叫びがあるからです。誰にも届かないように見える叫びも、必ず主は聞いておられます。そして正しい裁きを行って、罪あるものを滅ぼし、正しい人を救われるお方です。

主に祈ることもしないで自分の目に好ましい方を選んだロトですが、ソドムとゴモラの町が滅ぼされようとしたとき、主はロトを憐れんで救い出そうとされました。

二、アブラハムのとりなし

主がアブラハムに、ソドムとゴモラの町を滅ぼすことを告げられると、アブラハムは、「あの町に正しい者が五十人いるとしても、それでも滅ぼし、その五十人の正しい者のために、町をお救しにはならないのですか」と主に尋ねました。これは、正しい者と悪い者を一緒にして滅ぼすことをただしているのではなく、主の憐れみの心を求める言葉でした。

主は、「もし正しい者が五十人いるならば、その者たちのために、町全部を赦そう」と答えられました。続いて

アブラハムは、もし四十人なら、三十人ならと尋ね、ついに十人いたら滅ぼさないとのお答えを引き出ししました。このやりとりを通して、主は、多くの罪ある者を滅ぼすために少数の正しい者を犠牲にするよりも、わずかでも正しい者がいるならば、その者たちに免じて、全ての罪人をお赦しになる憐れみの神であることが示されました。

三、祈り手の必要

私たちも、主の憐れみによりすがって執り成して祈り、また存在を通して主の救いを現すべき者ですが、私たちの祈りや存在がこの世を救うことはできません。それは生まれながらの罪人だからです。主はアブラハムにソドムとゴモラの滅びについて告げられました。私たちに全世界の滅びを告げておられます。そして救いのご計画も明らかにされました。

そのご計画とは、主が執り成して祈ること以上に、御自分の命をもって罪を贖^{あがな}うことで赦しを与えられる、御子イエス・キリストの十字架です。イエスは、自分の命を犠牲としてささげ、私たちの罪を全て担って十字架に

かかって死んで下さいました。このイエスのとりなしによつて、私たちは、罪を赦され、義とされました。イエスを信じて洗礼を受けるのは、キリストと結ばれること、キリストの体である教会の枝とされることです。

イエスはご自身の命を執り成しのために献げられた、その恵みにたつて、弟子たちに執り成しの祈りを教えられました。主の祈りもそうですし、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」もそうです。

私たちは、信仰においてアブラハムの子孫であり、アブラハムの知らなかったイエス様の救いの恵みの中に生かされているものです。私たちは自分のために祈ることもできますが、だれか人のために、またこの世の救いのために祈ることもできます。主がどちらを願っておられるかは、この箇所からも明らかです。

結論

ただ一人の「正しい方」であるイエスによつて救われた私たちも、執り成して祈り続ける中で、主の憐れみを知り、生かされるものへと造り変えられていきましょう。

研究資料

(小平徳行)

アブラハムのとりなしの祈りの場面である。主はアブラハムにご自身を現された。それは子孫の約束の再確認のためであり、もう一つは、主がソドムとゴモラの町を滅ぼす計画を伝えるためであった。

テキスト

16 ソドムの方 「ソドムを見おろすほう」(新改訳)。

ソドム、ゴモラの正確な位置は分かっていない。しかし死海中央部に突き出た半島の南の地方はいくつかの川が死海東岸に注ぎこみ、集団生活にふさわしい環境があり、ソドムとゴモラの地域の描写(13・10)に適合する。かつてソドムとゴモラの王が逃げたシデムの谷には、アスファルトの穴があったとあるが(14・10)、死海南部には今もアスファルトが多量にある。死海の水位が何百年もの間上がり続け、湖面が次第に南へ広がって行った事は確かと思われる。従って半島南部がかつては平地であり、そこにソドム、ゴモラがあったと考えられる。

17-19 わたしのしよととする事をアブラハムに隠してよいであろうか やがて起こるソドム、ゴモラの壊滅が

単なる自然現象によるのではなく、神の審判であることであらかじめ知らせておこうとされた。それはアブラハムが諸国民の祝福の基とされたゆえであり、アブラハムの子孫への警告のためであった。アブラハムはその子孫に主の道(信仰に生きる道)を守らせ、正義(神の基準に合致した状態)と公道(善悪の識別、またそれに基づく行為)を行なわせる使命が与えられており、そのためにも知る必要があったのである。彼は後に「神の友」と呼ばれることになった(ヤコブ2・23、歴代下20・7、イザヤ41・8)。友は他の人には隠されている秘密を打ち明けてもらう特権を持っている(ヨハネ15・15)。知った(ヘヤードー)親しく、交わりにおいて知る事。「選び出した」(新改訳)。

20 叫び(ヘゼアーカー)これは法律用語で、非常な不公平に苦しむ人が助けを求める叫び。ここではソドムとゴモラについての悪を訴え、処罰を求める叫び。その罪神に背く罪(13・13)。

21 わたしはいま下って…それを知ろう 主がご自分でソドムの状況を調査しに行こうとしておられる。これは神が全知ではないことを示唆しているのではなく、神が

いかに人間社会に対して深い関心をもっておられるかを示している。また神はさばきを下すにあたり、慎重であり、ソドムの人々に最後の悔い改めの機会を与えようとしておられるようにも考えられる。

22 その人々 二人の御使いと考えられる(19・1)。單純に考えれば、三人の訪問客のうち一人は主であるということができ、これを受肉前のキリストとする解釈もある。確かなことは、アブラハムは人間の姿をした三人と出会い、そのうちの一人を前にして、神の臨在に触れたということである。アブラハムはなお、主の前に立っていた マソラ本文の注によれば、初めは「主がアブラハムの前に立っていた」となっていたものを逆にしたというものである。それは「立つ」とは仕えることを意味し得るので誤解を避けるためなどの理由によるとされる。いずれにしても主はアブラハムのとりなしを待っており、それなのであろう。

23 ここからアブラハムのとりなしが始まる。彼は神の選びの器にふさわしく、自分の身内のことだけでなく、地のすべての国々の祝福に関わる人物として、ソドム、ゴモラのすべての人々のために深く憂い、刑罰の執行の

猶予を嘆願した。

24 五十人 この地域にとつて五十人とは、少数であったと思われる。神のさばきを定めるのは、大多数の悪しき者たちか、少数の正しい者たちかの問題がここにある。

25 正しい者と悪い者とを一緒に殺すようなことを、あなたは決してなさらないでしょう 神の公正への強い確信による言葉。これは決して傲慢な態度ではなく、人間を代表するような立場にある者としての真摯な訴えであるといえる。

26 その所をすべてゆるそう 24節の祈りへの答え。義人の価値をここに見ることができる。もし五十人の正しい者があつたら ここには「五十人もいないであろう」という意が含まれているとも受け取れる。

27 32 アブラハムはソドムの悪を知る者として、そこに何人の正しい者がいるか不安になり、正しい者の仮定の数字を小さくし、神のあわれみへの信頼を拡大しながら、執拗にとりなししている。

参考図書 舟喜信「創世記」『新聖書注解・旧約I』、F・B・マイアー「信仰の高嶺めざして」(以上いのちのことば社)、他

聖書

創世記18・16〜33

タイトル

とりなしの祈りをささげよう！

わたしのしようとする事をアブラハムに

隠してよいであらうか。 創世記18・17

目 標

神の思いを知りつつ、とりなし祈る者となる。

導入

(和田 治)

皆さんは「とりなし」って知ってますか？ 果物ではあ

りませんよ。仲直りが難しい二人の間に入って、仲直りのお手伝いをする事なんです。「どうか赦^{ゆる}してやってください」ってお願いする、とっても大切な働きです。今日は、主なる神様に執り成しの祈りをささげた人に注目！

ソドムとゴモラを滅ぼそうとされる主

先週は主に従ったアブラハムの姿を学びましたね。あれから二十年以上の月日が流れました。今、アブラハムは甥のロトと別れてヘブロンに住んでいます。そこに、三人の旅人が訪れました。実はこの三人は主と御使いだったのです。「わたしのしようとする事をアブラハムに隠してよいであらうか。」主は恐ろしいことをお告げになります。甥

のロトが住んでいるソドムとゴモラを、なんと、町ごと全て滅ぼそうとしている、というのです！ ソドムは緑豊かで、栄えていた町でした。でも、そこには汚れた醜い罪が渦巻いていたのです。主は御使いを送って、その町の罪の重さを確かめようとされていました。

必死に執り成すアブラハム

御使いたちはソドムとゴモラに向かって出発しましたが、主はそこに留まっておられます。恐る恐るアブラハムは主に近づきました。「主よ、あなたは本当に、正しい人も悪人も同じように殺してしまうおつもりですか。もしあの町に正しい人が五十人いたとしても、それでも町を滅ぼされますか。その人たちのために町を救おうとはなさらないのですか。悪人も正しい人もいっしょに殺してしまうなんてことを、あなたがなさるはずはありません。世界をさばかれるお方は、公平でなければならぬでしょう？」「もし正しい人が五十人いたら、彼らのために町全体を救おう。」「おお！ 感謝します。ですが、あともう少し…。私は取るに足りない小さな者ですが、どうか言わせて下さい、もし正しい人が五人足りなければ、町を滅ぼされますか。」「四十五人いれば滅ぼすまい。」「では、四十人しかいなかった

たら?」「四十人でも」。

ああ、息も詰まるような会話です！ アブラハムは必死に執り成すのです。主も彼にお答え下さっています。

「どうぞお怒りにならないでください。あえてお聞きするのです。三十人ではいかがでしょう。」「やはり滅ぼすまい。」「では二十人だけでしたら?」「その二十人のために滅ぼさない。」「おお主よ、もうひと言だけ…。もし、たった十人だったら?」「その十人のために町を滅ぼすまい。」「そうおっしゃって、主は去って行かれました」。

神様の御思い

正しく聖い主は、罪をそのままにはできません。裁きを下し、罪を罰しなければならぬのです。残念ながらソドムとゴモラは罪のゆえに滅ぼされました。たった十人も正しい人がいなかったのです、そこには。でも、^{あわ}憐れみ深い主は、アブラハムの執り成しの祈りに答えて、ロトとその家族を救って下さいました！

私たちも、主の憐れみにすがって、執り成しの祈りをささげることが、主は願っておられます。忘れないでください、ソドムとゴモラの滅びを告げられた主は、私たちには全世界の滅びを告げておられることを！ だって、世界は、

ソドムやゴモラよりもっともっと大きな深い罪でいっぱいになってしまっているのですから！

救いの計画

でも、憐れみ深い主は、ちゃんと救いのご計画をお持ちでした。主はひとり子イエス様をお送り下さって、十字架に付けて下さったのです。イエス様は十字架の苦しみの中で「父よ、彼らをお赦しください」と執り成してくださいましたね。ご自分の命を差し出して、身代わりに罰を受けることで、救いの道を開いて下さったのです。このイエス様の十字架の死とご復活を、私の罪のためだと信じて、私たちの罪は赦されました。私たちだけでなく、すべての人を、主は救いたいのです！

まとめ

ですから、私たちは、自分のためだけに祈るのではなく、誰かのためにも祈りましょう。あなたは誰のために執り成しの祈りをささげたいですか？ 家族のため？ お友だちのため？ 世界の人々のため？ アブラハムのように必死に執り成す人を、主は探しておられるのですよ！

♪ 僕らの祈りで世界は変わる♪ (詩・曲 田中英昭)

※教会教育室HPで楽譜をダウンロードできます。

聖書 創世記28・10～22

テーマ 神がこの所に

序論

(高橋頼男)

ヤコブは、母リベカと共謀し、老いた父イサクを偽って、ついに兄エサウから長子の特権を奪い取ってしまいました。だまされたイサクは怒りにふるえ、エサウは泣き叫んで、失った長子の特権を求めましたが、一度ヤコブに渡った祝福はもはや移り変わることはありません。エサウはヤコブを深く憎み殺そうと決心しました。それを知った母リベカは、ヤコブを遠いパダンアラムの地に逃れさせました。

一、孤独な旅(1～5、10～11)

母と別れ、故郷を離れ、悲しみと不安を胸に抱いて一人旅するヤコブの心は、まことに切なくわびしいものでした。いまさらながら、兄に対する恐れ、老いた父を欺いた悲しみ、溺愛してくれた母の懐かしさが次々に思い起こされて込み上げてきます。ヤコブもこれまでの自分の悪事を思わずにはいられませんでした。「自分は何か悪いことをしてきたのだろう」。初めて、悔いのこころ

が起りました。これからどうなるのだろうか、将来に対する不安が襲ってきました。そして、今、まさに自分はひとりぼっちであることを思い知らされたのです。忸怩たる思いで、ひたすらさみしく心細く、石を枕にいつしか眠りにつきました。

二、神との出会い(12～17)

眠りに落ちたヤコブは、その夜、一つの夢を見ました。それは不思議な夢でした。一つの梯子が天から地にまでくだって立っていました。その上を神の御使いたちが上り下りしているのです。その光景の中から、ヤコブ自身に語りかける主の声が聞こえてきました。(わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。)その瞬間、ヤコブはこれまで伝え聞いていた祖父アブラハムを祝福した神、父イサクに現れた神を思い起こしました。その神が今、ヤコブにも現れてくださったのです。「ヤコブよ、お前は恐れ悲しみつつ、たったひとりで不安な旅を続けている。しかし、お前は一人ではない。わたしはお前と共にいる。お前がどこに行くにも、共にいてお前を守る。わたしは、決してお前を見捨てはしない」。思いがけない神からのことばは、慰めに満ちたことばで

した。この経験はヤコブにとって大きな転換点となりました。「わたしは知らなかった。そうだ、わたしは一人ではなかったのだ。こんなわびしい、一人ぼっちの愚かな自分に、主はその御目を注いでいてくださったのだ。こんな者と共にいてくださったのだ」。ヤコブの霊の目が開かれた瞬間でした。今まで恵まれた環境の中で育ち、自分を愛し守ってくれる人々の中で自由に思いのままに生きて来たヤコブでした。兄を出し抜いて長子の特権さえ手に入れたのです。しかし、今、追われるようにして故郷を後にして、一人、孤独な旅の中で初めて知ったのは自分の本当に醜い罪深い姿でした。しかし、このような自分に対して、神はみこころを留めてくださり、共にいてくださるというのです。「ヤコブの神との出会い」こそ、新しいヤコブの誕生の瞬間でした。

フランスの哲学者ブレーズ・パスカルは、多くの思想遍歴の後、ついに自分の神を見出したのです。その時、彼は『「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」、哲学者や、学者の神ではない。確かだ、確かだ、心のふれあい、よろこび、平和、イエス・キリストの神」と、歓喜の叫びをあげました（パンセ737・4〜6、田辺保訳）。

三、ベテルの経験（18〜22）

人生は、人間の目から見ると、偶然や不思議に満ちています。ヤコブは故郷を追われ、孤独な旅の中で野宿するという状況で、「こんなところで、こんな自分のために、神が共におられる」という驚くべき恵みを見出したのです。「神が共におられる」ということ、これこそ、すべて悲しむ人、孤独な者、自分の弱さを知らされる人、罪を思い出して自責の念にかられ思い悩む人にとって、真の救いです。ヤコブは、今や「わたしの神」となってくださった主を恐れかしこみ、その体験の場所に石の枕を立てて油を注ぎ、天の門と呼び、ベテル（神の家）と名づけました。「神、われらと共にいます」は、私たちの救いのそのものです。そして、主イエスこそ、私たちのインマヌエル（マタイ1・23）です。様々な状況や出来事の中で罪深い自分を知らされ、そこでキリストの救いを知ることこそ、わたしのベテルの経験です。

結論

こんなところにと思われる場所に、共におられる神に目を上げていきましょう。

研究資料

(小平德行)

ヤコブは父イサクを欺いて兄エサウの祝福を自らのものとした(27章)。そのため母リベカはエサウに命を狙われたヤコブを逃がすために、妻をめとるためという口実でハランへと行かせた。ヤコブはその孤独な放浪の旅路において神に出会うのである。これは彼にとって最初の個人的な神との出会いの経験であった。

テキスト

10 ハラン ベエルシバからベテルを通り、ハランまでの旅路は八百八十キロ以上になる。

11 一つの所に着いた時 「着いた」(ハ)パーガ)は「遭遇した」「出会った」という意味で、偶然の意味合いの強い言葉。人間的には偶然と思えることも神の側からは必然である。

12 ここには「見よ」と訳せる言葉が二回使われている。つまり、夢の中で見た幻は驚くべきものであった。一つのはしがが地の上に立って「はし」(ハ)スーラーム)は語源的には「積み上げる」(ハ)サーラル)から来ていることから、高速道路のランプのような傾斜した道か、

階段のようなものともとれる。ここで重要なことは天と地を結ぶものであるということ。新改訳では「地に向けて」、新共同訳では「地に向かつて」。これは地からのものではなく、天からのもの、つまり、人からの接近ではなく、神からの接近であることが強調されている。神の使たちがそれを上り下りしているのを見た 御使いは救いを受け継ぐ人々に奉仕する者であるから(ヘブル1:14)、この光景は神がヤコブを保護されることの約束(15)の保証を暗示するものである(詩篇34・7参照)。また、このはしは神と人とを結ぶ道であるキリストの予表でもある(ヨハネ1・51参照)。

13 主は彼のそばに立って言われた 主の臨在への気づきは、主の御声を聞くことから生まれる。ここでヤコブが契約の継承者であることが確認される。

14 15 ここには子孫の繁栄、子孫による地上のすべての民族の祝福についての約束がなされている。これはアブラハムやイサクにも約束されていた事である。それに加えて、主がヤコブと共におられること、主は約束を成し遂げるまで決して見捨てないことが示されている。実際にその後ヤコブの歩んだ道のりは険しいものであり、

約束が成就するまで、主の臨在は不可欠であった。主が共におられることこそが契約の根本であると言える。

16 まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった。家を離れ、今まで親しんできた礼拝の場所を離れ、非常に孤独感を感じている時に、この予期しない所で主の臨在を知った驚きが表れている。利己的な罪深い自らをも顧みてくださり、共にいると約束してくださった主の恵み深さへの驚きでもあろう。

17 神の家 神の臨在の場所。人生の旅路のどこにでも神と対面する「神の家」がある。天の門 神の臨在に触れることが許された場所を示す表現。

18 石を取り、それを立てて柱とし、その頂に油を注いで 石そのものを神格化したのではなく、神がヤコブに現れ、アブラハム、イサクへの約束を引き継がせてくださったことを証する記念碑として。油を注いで 契約あるいは誓いが神聖であり、冒すことのできないものであることを表す象徴的な行為。

19 その所の名をベテルと名づけた アブラハムはベテルで二度祭壇を築き、礼拝している(12・8、13・3)。アブラハムの時代の記事に「ベテル」を用いているのは、

後に名づけられた地名で説明しているため。ヤコブは、ここがかつてアブラハムが祭壇を築いて礼拝した場所であることを知らなかったと考えられる。このような場所に導いて、同じように神の名を呼ばせることに神の摂理を見る。

21 安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう 新改訳第三版では「無事に父の家に帰らせてくださり、こうして主が私の神となられるなら」(新共同訳もほぼ同じ)となっている。いずれにしても22節のヤコブの誓いを果たすための条件のような形で書かれている。しかし、これは疑いを含んだ言葉ではなく、神の約束に基づいての誓願と取るべきであろう。新改訳第二版は「私が無事に父の家に帰ることができ、主が私の神となつてくださるので」と、ヤコブが約束の実現を確信し、先取りしたように訳している。

22 十分の一 所有物の聖別である。ヤコブの場合は、律法によるものでなく、自由意志によるささげものである。アブラハムにならったのかもしれない(14・20)。

参考図書 舟喜信「創世記」『新聖書注解・旧約I』(いのちのことば社)、G. J. Wenham (Word) 他

聖書

創世記28・10〜22

タイトル

神様といつもいっしょ！

まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった。

創世記28・16

目 標

共におられる神に目を向けて生きる。

導入

(和田 治)

みなさんは、スーパーや遊園地で迷子になったことがありますか？ お友だちから仲間はずれにされたことはあるでしょうか？ 「ひとりぼっちになっちゃった！ どうしよう！」っていう経験があるかな？ ちょっと想像してみて下さい。家族からも友だちからも、先生から誰もからも別れて、一人ぼっちになったとしたら、どんなにさびしい事でしょうか…。実は、今日のお話の主人公のヤコブはまさにひとりぼっちで、途方に暮れていたのですね。ヤコブの気持ちになって聞いて下さい！

ひとりぼっちになったヤコブ

実はヤコブは、お兄さんのエサウからうまく長子の特権を手に入れました。今度は、お父さんのイサクがエサウに祝福の祈りをしようとしたとき、お母さんと力を合

わせて、エサウのふりをし、お父さんをだまして祝福を奪ってしまったのです。かんかん怒ったエサウ。「くそっ！二度も俺をだましやがって！ おやじも長いことはない。そうなら見てろ、ヤコブのやつ、必ず殺してやる！」そうやってはたまりません。ヤコブは遠く離れた町、お母さんの故郷に逃げることになったのです。ハランというその町は、これまで住んでいたベエルシバから900キロほど、日本でいうと東京から本州の西の端の下関くらい離れているんです！初めて一人で家を離れ、ひたすら歩き続けるヤコブ。もう、心細くて寂しくてたまりません。気がつくと見知らぬルズという町にきていました。誰も知っている人がいない所。もう夜です。疲れ果てたヤコブは野原で横になるしかありませんでした。「お母さん！」涙がほほをつたって、石の枕をぬらしめます。しかも、「エサウ兄さんの使いが追いかけて来たらどうしよう！」そう思うとますます怖くて、悲しくてたまらなくなるのでした。なんて惨めな夜でしょう…。

主は共におられた！

やがてヤコブは眠りにつきました。すると、夢の中で一つのはしごが見えたのです。それは、天から地へとく

8月

10日 礼拝メッセージ例

だる、とつてもながういはしごでした。天使がそのはしごを上り下りしています。そしてなんと、その夢の中で主の声がはつきりと聞こえてきたのです。「ヤコブよ、わたしはアブラハムの神、イサクの神である主だ。お前は恐れ悲しみながら、たったひとりでさびしく不安な旅を続けている。だが、お前はひとりぼっちではない。私がいつもお前と共にいる。お前がどこに行くにも、いっしょにいて、お前を守る。わたしは、決してお前を見捨てない!」。何という慰め! 何という励ましでしょう!

「本当に主がここにおられるのに、私は知らなかった!」。今、ヤコブには分ったのです。「そうだ、私は一人じゃなかったんだ。こんな私さえ主はその御目をそそいでいてくださり、共にいて下さったんだ!」ヤコブの心の目が開かれ、今まで見えなかった主に目を向けることができるようになったのです。彼の心はこれまでにない本当の喜び、平安、希望に満ち溢れてくるのでした。

共におられる主に目を向けよう!

夢から覚めたとき、ヤコブは共におられる主の語りかけをがっちり受け止めて、心の目を主に向けました。あ

なたは、「神様の声なんか聞こえないよ」って思ったことがありますか? いいえ、たった今、聞こえているじゃありませんか! この聖書のお言葉こそ、主なる神様の声、あなたのすぐそばで語りかけておられる御声なんです! その御声に従って、神様に心の目を向けましょう!

ヤコブの夢の中で天と地をつなぐはしごがありましたね。それは、やがて天から降って来てくださるイエス様をあらかじめ表していたのです。イエス様は、十字架で命を投げ出して、私たちの罪を負ってくださいました。私たちが天の御国に登って行ける「はしご」になってくださったのです。イエス様を信じる人の全ての罪は赦され、そして、絶対に一人ぼっちになんかありません。

まとめ

いつも一緒にいてくださる神様に目を向けて生きるなら、何も怖いものではありません。悲しみは癒され、罪は赦され、心は愛で満たされます。どうか忘れないでください、神様は目に見えなくても、この耳で御声が聞こえなくても、いつもいっしょだったこと!

♪神さまといつもいっしょ♪(イン73)

聖書 創世記37・5～11 テーマ ヨセフ① 神の計画

序論

(石田高保)

ヨセフについての記事には、夢のことが二回出てくる。今日の箇所とパロが夢を見るところである。そのどちらも預言的なもので、将来実現される神の計画を暗示している。私たちの人生にも神の計画がすでに立てられており、その一端しか見えないものの、神はその実現のために私たちを用いなさる。

一、神の計画を知る

ヨセフは父ヤコブの愛したラケルの忘れ形見であることから、えこひいきされて育ったので、お兄さんたちからはひどく妬まれていた。そんなある日、ヨセフは人からどう思われるかも知らずに、自分の見た夢を父や兄たちに話し始める。それは二つの夢であるが、主題は同じである。それはいつかヨセフが親や兄弟の上に立つというイメージである。ヨセフはこれを得意になって話したのだろうか。それとも意味の分からない夢なので黙っておけなかったのだろうか。いずれにせよ本人は無邪気にしゃべったの

に過ぎないのに、その波紋は小さくなかった。まず兄たちからますます憎まれることになった。父ヤコブはというとヨセフをとがめながらも、「この言葉を心にとめた」とあるから、兄たちとは違う受け止め方をし、何か預言的なものを感じたのかもしれない。

ところが驚くべきことにヨセフの夢は十数年の時を経て、そのとおり実現する。私たちはこれをどう受け取ったらよいのだろうか。二度も同じテーマの夢を見ることは、パロの豊作と飢饉の夢と同じく、神が必ず実現させるといふ裏付けである。つまり神はヨセフの夢とおして、ヤコブの一族に立てたご計画の一端を示されたということになる。

私たちの人生においてヨセフのような体験はめったにあることではない。しかしそれほどではなくても、神は私たちの経験、願望、状況、人の助言、みことば、祈り、ときには夢などをおしてそれぞれのための祝福の計画を示して下さることがある。それは運命とは全く違う。神の計画は私たちの意志とは関係なく、決定論的に邁進するのではなく、むしろ自分の意志を働かせて神の計画実現に協力すると言った方がいいかもしれない。神は私たちの個性や判断や能力や願望を最大限尊重した上で、神の計画へと導かれる。

だからある時の選択は、最善ではないかもしれない。それどころか我をとおしたり、横やりが入ったために次善、三善、ときには最悪になるかもしれない。しかし神はその結果の一部を私たちに負わせた上で、癒しと回復と新しい展開を与えて下さる。

二、神の計画に協力する

「人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である」(箴言16・9)とあるように、私たちの判断ミスや独断専行することがあっても、それで神の計画がとん挫するわけではない。本来あるべき形ではないかもしれないが、神と共に歩む限り、大筋において神の計画は実現してゆく。たとえば旧約の歴史のみならず、世界や日本の歴史においてもそのことが透けて見える。歴史(History)は、His story 神の物語であると言われる。神は一定期間、悪がはびこるのを許容しておられるが、時が満ちると歴史に介入し、軌道修正をされているようである。「わたしの計りごとは必ず成り、わが目的をことごとくなし遂げる」(イザヤ46・10)とあるように、個人や家族や教会の歴史においても、人間の罪深さにもかかわらず神の計画はくじけない。

ヨセフの見た夢は、実に神の計画を啓示されたものであったが、それがお兄さんたちの罪深い行いによって成就するとは、あまりに不思議で人間の理解を超えている。それなら結果オーライでお兄さんたちの過ちが免責されるのかと言うとそうではない。もしそうならお兄さんたちの悪事は最善であったことになってしまう。彼らはヨセフの前にバツリ手をつけて謝罪することによって赦ゆるされている。それによってヨセフも救われた。お兄さんたちへのわだかまりから解放され、心の底からお兄さんたちを赦せたからである。彼らの謝罪をうやむやにしていたら、ヨセフはいつまでも古傷がうずいただろう。不幸な出来事の引き金になった夢であるが、それがまた一族の救いとイスラエル民族の繁栄につながるわけだから、神の計画は人知の遠く及ぶところではない。そこにまた私たちの安心もあるわけである。

結論

どんなにつじつまの合わない出来事に出くわしても、どんなに受け入れがたい事実にも面食らつても、その向こうに神の計画を見えるという眼力を養いたい。そして神の計画に協力させて下さいと申し出ようではないか。

研究資料

(宮澤清志)

今日から4週間に渡って「ヨセフ物語」を取り扱う。この物語を扱うには、創世記全体を理解しておく必要がある。特に、ヨセフ物語を一貫して流れているテーマが「神の摂理」であることを心にとめるべきである。37章以下を読むだけでなく、創世記全体の中のヨセフ物語の位置づけも頭の中に入れながら読むことが望ましい。なお、ヨセフ物語(37章)の内容(梗概)を次週の研究資料に掲載しておくので、その項も参照いただきたい。

ヨセフの夢の物語は他の物語にある夢の記事とはいくつかの面で異なっている。まず、夢の中に神が現れてこないこと。また、曖昧ではなくそれを聞いた他の人々にも非常にはつきりと理解できる夢であること。そして同じ意図を持った夢が2度繰り返されること。特にこのことは夢の意味するところをはつきりとさせる効果を持つものとされる。

テキスト

5〜8 ヨセフの見た夢の紹介と、兄弟たちの反応が描かれている。この夢の中には、神の顕現や神からの直接

的語りかけもない。ここでは、夢は言葉ではなく象徴としての意味を持つ。

夢 古代世界では、夢の意味するところは広く証言されていた。夢を解く方法も現存している。スフィンクスの足元には「夢の碑文」というものが埋まっていることからしても、夢解きは当時から広くなされていたという。

さて、聖書において、夢は重要な内容を持っていることが少なくない(創世記28・10〜17、列王上3・5〜15、マタイ2・13等)。一方で、聖書の中には「わたしは夢を見た」と語って偽りを預言する預言者もいた(エレミヤ23・25)。このように、聖書においては、夢は肯定的にも否定的にも、あるいはむなしなもの(ヨブ20・8)としても取り上げられている。日常生活そのままの夢は、もちろん特別な意味を持つことがなかったが、中には特殊な内容を持ち、その解釈を必要とするような場合もあった。そのような場合に問われるのは、夢を見させる神がどのような意図を持っているのか、というメッセージの把握が必要なことである。そこから夢の解き明かしをする職業的な地位を持つ者が現れた。しかし、夢の解き明かしはあくまでも夢を与えた神ご自身であって、その人

物に解き明かしの霊的伝達をしたのである（創世記40・8、ダニエル2・28）。人間的な作為をもつて見る夢に、神のみ告げは見出せないのと同様、人間的な作為をもつて夢の解き明かしはできないのである。

7 わたしたちが畑の中で束を結わえて 羊飼いであるヤコブ一家（2）が麦の束を収穫しているが、当時の遊牧民は、全くの遊牧民ということではなく半遊牧民であることを示唆している。当時の遊牧民は、遊牧するばかりでなく、定住することもあった。その場合は何らかの穀物を植え、収穫もしていたようである（創世記26・12）。わたし**の束を拝みました** 「おじぎをしました」（新改訳）、「ひれ伏しました」（新共同訳）とある。このことは、ヨセフの兄たちに対する支配権を表すものと考えられる。

9〜11 2番目の夢の紹介と、ヤコブら家族の反応。

9 わたしはまた夢を見ました この箇所には「ヘンネー（見る）」という言葉が2度用いられている。新改訳聖書では「見ましたよ。見ると」と訳されており、ヨセフの語り口がよく表現されている。得意げになってヨセフが語る語り方を、彼の無邪気さからのものであるとの考え方が根底にあるのであろう。

10 わたしとあなたの母 ヨセフの母はラケルである（30・22〜24）。しかし、ラケルは既にヨセフの弟ベニヤミンの出産に際して亡くなっている（35・16〜21）。死んだラケルがヨセフを拝むことはないの、これは便宜上ラケルの姉のレア（29・16）のことを指すという説明をする者や、母ラケルがまだ存命中であるという立場をとる者もいる。しかし、ヨセフにとっては母はやはりラケルである。夢の中に故人がでてくることはありうることである。

11 心にとめた 字義通りには「言葉を記憶した」。兄たちは、ヨセフの夢の中に、自分たちに対する威嚇のみを見る。それに対してヤコブは、ヨセフとともにある未来に対する神の啓示を見たのであろう。この両者の態度は、神の言葉が語られたときの私たちの態度としてもとらえることができる。前者は感情的にとらえる態度であり、後者は謙遜さをもつてとらえる態度である。この態度は、主の母マリヤの態度へとつながる（ルカ2・19）。

参考図書 デレク・キドナー「ティンデル聖書注解 創世記」（いのちのことば社）、R・デヴィッドソン「ケンブリッジ旧約聖書注解1 創世記」（新教出版社）他

聖書

創世記37・5～11

タイトル

君も神様の計画の中にある！

暗唱聖句

人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である。

箴言16・9

目標

神がご計画をもつて自分の生涯を導かれることを覚え、生きる。

導入

(飯田勝彦)

今、皆さんの中で悩んで辛い思いをしている人がいますか？ 私たちは生きて行く中で、辛く苦しいこと、悲しいこと「え〜どうして！」と思うようなことを体験します。でも、それらすべてが悪いこととは言えません。

例えば、注射はチクリとして痛いですが、でも、痛いからといって、悪いものではないでしょう。注射は痛いけれど、私たちの健康を守るために大切なものです。

そのように一見、悪いように思えることも、そこに私たちが祝福される神様のご計画があることを知りましょう。

憎まれるヨセフ

今日からしばらくヨセフのお話です。ヨセフにはたくさんのお兄さんたちがいました。兄弟仲が悪いことは辛いですね。ヨセフはお兄さんたちから憎まれた弟でした。なぜなら父親ヤコブにとって、ヨセフは年を取って生まれた子でした。ですから、ヤコブはヨセフが「目に入れても痛くない」ほどかわいくて仕方がありませんでした。

もし、皆さんのお父さんが弟や妹ばかりかわいがって、美味しい物やおもちゃなどを買っていたならどうでしょうか。良い気持ちはしないでしょう。ヨセフのお兄さんたちも同じ気持ちでした。しかもヨセフが、お兄さんたちを支配している夢を見たことを聞かされます。それで、兄たちはますますヨセフを憎むようになります。ヨセフと兄弟たちの関係は悪くなったのです。なんとこれもヨセフとヤコブの家を祝福する神のご計画だったのです。

神様のご計画は、不思議

神様は不思議な方です。私たちの思いをはるかに超えた計画を立てておられる方です。

イスラエルの民がエジプトを脱出したとき、目の前に

紅海が立ちほだかり、後ろからはバロの軍勢が追って来ました。イスラエルにとっては絶体絶命、最大のピンチでした。その時、何が起りましたか。神様は、ご自身の力で紅海を2つに分けて、そこを渡れるようにして助け出されました。

イエス様は救い主としてこの地上に来られました。そして、多くの奇跡を行ったり神様について教えたりされました。でも、律法学者たちやパリサイ人は、イエス様をねたみ憎んだのです。イエス様に従って行った人たちも最後には「イエスを十字架につけろ!」と叫びました。イエス様を十字架に追い込んだのは、人々の憎しみとねたみの罪でした。

その後、神様は三日目にイエス様を死から復活させました。イエス様の十字架の死は、敗北ではなく勝利でした。「死」が勝利につながるなど、どうして考えられるでしょう。神様の計画は、罪の中で滅びに向かう私たちが救われ、神と交わり、永遠の命を得る恵みとなったのです。神様は人々から「木にかけられる者は呪われる」と言われていた十字架を用いて救いの道を備えて下さったのです。神様は何と不思議なことをなさるのでしょうか。

ヨセフがお兄さんから憎まれたことも、決して無駄なことではありませんでした。一見、悪いように見えても、ヨセフや家族に祝福が与えられる計画が備わっていたのです。

君も神様のご計画の中にある

ヨセフと家族を祝福に導かれた神様は、今も生きておられます。しかもあなたを祝福しようと計画をもっておられることを知ってください。

ときに、「嫌だな」。辛いな。悲しいな。あの人の絶対に許せない!と思うことがあるかもしれません。そんな時にはヨセフのことを思い出してください。

神様があなたにもっておられる計画は、決して悪いものではなく、あなたを祝福し幸せにするものです。

まとめ

「見方を変えれば味方になる」とあります。嫌なことが、本当は大切なことであり、神様の祝福にあずかるものであると見方が変われば、今までと違った歩みが生まれてきます。「愛である神様は、私の祝福と幸せをいつも願ひ、計画してくださっている」と心から信じましょう。

♪主がわたしの手を (ホ 89、P W 97、新聖歌 474)

聖書 創世記39・19～23 テーマ ヨセフ② 共におられる神

序論

(石田高保)

アブラハムに与えられた神の祝福は、イサク、ヤコブへと継承された。ヤコブの12人の子どもたちはイスラエル12部族の先祖になるわけで、彼らひとりひとりに神の祝福が継承された。しかしその中で最も祝福されたのは11番目のヨセフである。彼の青年期は苦難の連続であったが、祝福も並はずれていた。さて祝福された生涯とはどういうものか。

一、境遇にうち勝つ

ヨセフはヤコブの特別な愛情を受け、えこひいきされたので、兄たちから妬まれた。また正義感が強かったので、兄たちの悪い行いを父に告げ口していた。そういうことから兄たちに憎まれて、ついに奴隸として売り飛ばされた。このとき17才で、彼の青春は悲惨な境遇から始まった。彼はエジプト王の護衛隊長ポテバルに買われた。彼は王の信任の厚い政府高官である。主人がヨセフに任せた仕事は何でもうまく行くのを見て、これはただ者ではない、この男

には神が味方についていると悟ったのであろう。さらにこの主人はヨセフに自分の家と畑をはじめ全ての財産を任せたと、それらは驚くばかりに増えて行った。そしてついに「彼は持ち物をみなヨセフの手に委ねて、自分が食べる者の他は、何をも顧みな」くなった。ヨセフが奴隸の境遇に落とされながらも主人の信任厚い者となった秘密は「主がヨセフと共におられた」という言葉に隠されている。ここには二つの意味がある。

まず主が共におられることはヨセフの日常的な体験であった。自分には神がついている、だから神は自分を決して悪いようになさらないと悟っていた。つまり神の摂理に委ねていた。彼には生きて共におられる神が見えており、この方に信頼することを習慣としていた。だから彼は主人のために言われた以上のことを喜んですることができた。「わたしは飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている」(ピリピ4・12)とあるように。

二、誘惑にうち勝つ

では順風満帆かというとそうではなかった。主人の奥さんがヨセフに目を付けて誘惑してきた。これに対してヨセ

フは二つの理由を挙げてキツバリと拒んでいる。彼にとつて魅力的でなかったからではないだろう。第一に姦淫かんいんによつて神と自分とポテバル夫妻を汚すことはできないから。第二に主人の信頼を裏切るわけにはいかないから。それでも奥さんは毎日言い寄り、ヨセフの服を掴つかんでまで関係を追ってきた。しかし彼は毅然としてその場から逃れた。

彼は誰も見ていないところで自分の純潔を守った。悪魔はいつも隠れたところから侵入してくる。きよさというものは、一人でいる時にこそ試される。誘惑に勝つ秘訣、それは神の前に歩み、いつも主を目の前に見ていることではないだろうか。

三、迫害にうち勝つ

主人の妻は思いを遂げられないことの腹いせに、ヨセフが乱暴しようとしたと偽つて主人に訴えた。主人はこれを真に受けて激しく怒り、ヨセフを投獄した。一言の弁明も、潔白の訴えも受け入れられなかった。さて彼は牢獄で自暴自棄になったのだろうか。むしろ正しいさばきをなさる生ける神に万事をお任せし、そこで与えられた仕事をこれまでと同じように忠実にこなしていった。主もヨセフと共に働

かれ、牢獄でも人々の信頼を勝ち取った。自由人から奴隷へ、今度は囚人へと世の中のどん底に落ちたにもかかわらず、仕事ぶりでも人間関係でも成功し、一目も二目も置かれる存在となったのである。

このように自分には何の落ち度がなくても人から妬まれたり、意地悪をされたり、義のために苦しむことがあるかもしれない。人から身に覚えのない噂を立てられたり、誤解されたり、白い目で見られたりしても、最後には公平な決着をつけて下さる神により頼んでいれば間違いはない。これはイエス様の受難によく表れている。

「万一義のために苦しむようなことがあっても、あなたがたはさいわいである。彼らを恐れたり、心を乱したりしてはならない。ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい」(1ペテロ3・14、15)。ヨセフは無実の罪にも、獄中の青春にも腐らなかつた。むしろ置かれた所で最善を尽くした。そうしたら主が最善を計って下さったのである。

結論

〈主がヨセフと共におられた〉ように、私たちも心の内で主をあがめながら、境遇に勝ち、誘惑に勝ち、迫害にうち勝たせていただく。

研究資料

(宮澤清志)

ヨセフ物語全体の位置づけについて

まず、W・ブルグマンは、ヨセフ物語を「隠されている神の招き」と題して、以下のように分解している。

37章 夢

38章 (ユダ)

39～41章 ヨセフと帝国 (エジプト)

42～44章 ヨセフと兄弟たち

45章 ヨセフの職務

1～15節 職務の開示

16～20節 職務と帝国 (エジプト)

21～28節 職務と家族

46章～47章28節 エジプトでの定住

47章29節～50章14節 ヤコブの死

50章15～21節 夢の結末

50章22～26節 ヨセフの死と希望

ひと言で言えば、ヨセフの夢を軸にして、その夢の背後におられる神の働きを物語っているのである。

さて、本日の個所であるが、上の梗概にもあるように、

39章はエジプトでのヨセフ、特にヨセフが売られていった先のポテパルの家での出来事と、その後の獄屋での出来事について語られている。本日取り扱う個所は、そのうちの獄屋でのヨセフの様子を描いている。

実は、多くの注解者によって、今日の個所と39・1～6aの個所との類似性が指摘されている。本章のテーマである「主がともにおられた」という言葉が4回にわたって語られる(2、3、21、23)ことも、私たちは見逃してはならない。このみ言葉のヨセフにおける出来事として、6b～18が語られているといえる。説教においては、先週の復習として本章全体に言及する必要がある。したがって準備は本章全体にわたってするべきである。

テキスト

19 多くの注解では、19節を前の段落に組み入れている。確かに内容的には18節に続くものとして見る事ができる。

激しく怒った この個所だけを見るならば、ポテパルは誰に対して怒っているのが不明確である。一見すれば、この「怒り」はヨセフに対する怒りと見ることもできるが、その後のこの問題に対する処理の仕方、特にヨ

セフの扱い方を見る限り、一概にはヨセフに対する怒りと見ることは無理がある。

20 姦淫かんいんは、イスラエルでは極刑に価する重罪であった。特に、夫のある女との姦淫は、2人とも死刑にされる。しかし、この主人はヨセフを極刑ではなく投獄にする。これは処分としては明らかに軽い処分である。一つには、主人のヨセフに対する信任が厚かったがゆえの寛大な処分であろうという見方もある。一方前節とのつながりからいえば、前節の主人の怒りはヨセフに対するものではなく妻に対するものであり、投獄は外面を取り繕うためであるとする見方もできる。いずれにしてもこの処罰は非常に寛大な、軽い処罰であった。**獄屋に投げ入れた** 直訳は「獄屋に置いた」。この表現は、必ずしも入獄を意味する言葉ではない。また、獄屋に置かれたお方の存在を示したものである。**獄屋** 語源としては、円形の建築物を指している。七十人訳聖書では「砦」とある。また、このような監獄に送り込まれた囚人たちは、強制労働をさせられたことが知られている。また、この獄屋は自衛長ポテパルの家にあったといわれており(40・3)、ポテパルはこの獄屋の最高責任者であったと

も考えることができる。

21 23 インマヌエルの主の臨在が語られる。実は、冒頭に述べたように、この箇所は本章1～6節の焼き直してしての性格を有している。主がヨセフとともにおられたということは、ポテパルの家でも(4～6)、そして獄屋の中でも共通している。その結果、ヨセフはポテパルの家でもその持ち物の管理を委ねられたように(6)、ここでも獄屋の管理を委ねられたのである。このことはヨセフ物語全体を貫くテーマでもある。

21 獄屋番の恵みをうけさせられた ポテパルの家でも同様のことが語られる(4)。一方で、詩篇105・18で述べられている現実には、ヨセフがおだやかに収監されているという考え方を訂正させるものである。

22 23 本章4b～6節参照。ポテパルの家で用いられたヨセフの立場は、監獄の中で再現される。この言葉は次週へと引き継がれる(41・40、44)。**すべて** 獄屋番の、ヨセフに対する信任の厚さを物語っている。

参考図書 8月17日分に加え、W・ブルグマン「現代聖書注解 創世記」(日本基督教団出版局)

聖書

創世記39・19～23

タイトル

主は私と共についてくださる！

暗唱聖句

主がヨセフと共におられたからである。

主は彼のなす事を榮えさせられた。

創世記39・23

目標

どんな状況の中でも神が共におられることの幸いを知る。

導入

(飯田勝彦)

みんなは、よく「一緒にくししよう」って言いませんか？
 「一緒に帰ろう」「一緒に遊ぼう」「一緒に座ろう」「一緒に食べよう」「一緒に勉強しよう」など。一人よりも誰かと一緒の方が嬉しく安心することがあると思います。でも、いつも一緒にいた友だちと喧嘩して、一緒に遊ぶことができなくなることもあります。また、クラスが変わったり、転校したり、卒業したりして離れてしまうこともあります。でも、どんな時も、いつも一緒にいてくれる人がいたなら、なんて幸せで安心でしょうか。

苦難が続くヨセフ

先週に続き、ヨセフが登場します。ヨセフを憎んでい

た兄たちは、その憎しみが抑えきれなくなって、彼を捕らえて穴に投げ込みました。その後ヨセフは、ミデアン人の商人によってイシマエル人らに売られ、さらに彼はエジプトへ連れて行かれました。ヨセフは親から離れ、知り合いが誰もいない所に無理矢理に連れて行かれたのです。もし突然、あなたがアフリカに連れて行かれたらどんな気持ちになりますか。

エジプトに連れて行かれたヨセフは、エジプトの王パロの役人ポテバルのものになりました。ポテバルは、ヨセフの忠実さを気に入り、彼に家の管理や財産をすべて任せることにしました。ある時、ポテバルの奥さんが、ヨセフに近づいて来ました。ヨセフは罪を犯してはいけないと、ポテバルの奥さんの話に耳を傾けず、彼女と共にいることをしませんでした。ある日、ポテバルの奥さんがヨセフの着物をつかんで誘惑しました。ヨセフは、その場から逃げましたが、自分の着物を残して行ってしまったのです。それが主人の耳に入り、ヨセフは牢獄に入れられてしまいました。

ヨセフは、実際には何も悪いことをしていません。彼は、神に罪を犯さないように注意していました。でも、

ヨセフの身には、次から次へと嬉しくない困難がやって来たのです。

主はあなたにも共におられます！

皆さんの中には今、ヨセフのように「どうして？」と思う困難にあっている人がいるかも知れません。友だちとの関係が突然悪くなったり、勉強が思うようにならないで悩んでしまったり…。そんな時、私たちは「誰もわかってくれない」と、世界中でたった一人ぼっちにされたように感じてしまうことがあります。

兄たちから見放され、エジプトに売られ、牢獄に入れられてしまったヨセフでしたが、決して一人ではありませんでした。神様がヨセフと共におられたのです。

今朝の創世記39章には、繰り返し「主がヨセフと共におられた」と記されています。神様が共におられたヨセフには、困難も多くありましたが、すべて恵みに変えられたのです。

私たちの生活の中に、多くの困難があります。それを「困難は嫌だ」と思いながら生活するのと、「困難は嫌だけど、でも神様が共にいてくださって、必ずこの困難を恵みに変えてくださる」と信じて生活するのとどちら

が良いですか？ 神様は今も、あなたと共にいてくださるのです。その事実を信じて生活する時、困難の中にも神様を信頼していけるのです。

K先生は、小学校で障がいがある男の子の担任になりました。男の子は「もとやす君」と言い、一人で起きることができない生徒でした。K先生は、不安になるもとやす君に「もつちゃん、先生がいるから大丈夫だよ！」と声をかけて安心できるように励ましていました。ある時、K先生はハッと気づいたのです。「Kさん、大丈夫だよ。わたしはいつもあなたと共にいるよ」と神様がいつも声をかけて励ましてくださっていること。自分の生活の中にも神様が共にいてくださる恵みがあることを。

K先生は、しみじみと神様と一緒にの幸せを実感したのです。

まとめ

ヨセフの神様は、あなたにも共におられます。今朝、神様がいつもどんな時でも、私と共にいてくださり、恵みと祝福を与えてくださると信じましょう。

♪神さまかんしゃします♪ (ホ119)

聖書 創世記41・37～49
テーマ ヨセフ ③ 聖霊に導かれる生涯

序論

(石田高保)

雌伏千年、雄飛万年と言われるが、実にヨセフのような人物のためにあるような言葉である。しかもヨセフに雄飛させたものは偶然や運ではなく、自らの計画の内に入念に頃合いを見計らっておられた神である。

一、逆境への対処法

ヨセフは無実の罪を着せられて投獄されたが、そこで神の救いを待ち望みながら日常の務めを果たしていた。しかも獄屋番の信頼を得て、獄屋の管理を任せられるほどになった。そんなある日、エジプト王の給仕役と料理役とが王の怒りを買って投獄されてきた。彼らは王の側近で、政治の相談役でもある。ある晩二人とも意味ありげな夢を見たが、その意味が分からないので悩んでいた。ちょうど折よくヨセフは夢解きのできる知恵を授かっていたので、二人の夢を解いてあげた。給仕役は三日目に元の地位に戻されるという意味であり、料理役のほうは三日目に処刑されるという意味だった。そこでヨセフは給仕役に、元の地位

に戻れたら、釈放されるように運動して欲しいとお願いした。そして三日たったら、果たしてヨセフの言うとおり釈放になった。ところが給仕役は嬉しさの余りか、「ヨセフを思い出さず、忘れてしまった」(40・23)。何日、何週間、何ヶ月待っても何の音沙汰もなく、とうとう二年が過ぎてしまふ。恩知らずもいいところである。この二年間はそれ以前の11年間に増して苦しい時期だったろう。このようにヨセフは兄たちには見捨てられ、主人の妻からは欺かれ、助けた給仕役からは忘れられるという悲哀を味わった。

人から忘れられ、感謝もされないように思うときがあるだろう。しかし神は決して私たちを忘れなさない。神の目は一瞬たりとも私たちから逸れないのである。「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあろうか。たとい彼らが忘れるようなことがあつても、わたしは、あなたを忘れることはない」(イザヤ49・15)とあるように。

二、順境への対処法

給仕役の長が出獄してから二年後、王は意味のある夢を見たが、エジプト最高の知恵者たちもそれを解くことができなかった。そのとき給仕役の長はヨセフに夢を解いても

らったことと、釈放の運動をする約束を思い出した。そのことを王に伝えと、すぐにヨセフが牢獄から呼び出されることになった。そして彼は王の夢を解き明かした。それは神が七年の大豊作の後、七年の大凶作をもたらそうとしていることだと。さらにヨセフは、七年後に来る飢饉に備えて食糧を備蓄するように助言した。するとエジプト王は彼の知恵に驚嘆し、すぐにヨセフを総理大臣に任命して政治一切を任せることにした。ヨセフの知恵はエジプトの王をして、〈われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか〉と言わしめたわけである。奴隷に売られてから苦節13年、30才の時である。朝は囚人、夕には宰相などという大出世を遂げた人は、歴史上ヨセフ以外にいないだろう。しかもエジプト人にとってヘブル人は忌むべき羊飼の民である。実に神の介入なくしてはあり得ない展開である。

ヨセフは17才の時から30才になるまで、奴隷と囚人という過酷な境遇を通った苦勞人である。彼に青春はなかった。しかも全てをご存じで正しくさばいて下さる神を当てにしながら最善を尽くすという神の訓練を受けた。そのときの彼にはわからなかったが、これらの境遇と苦勞はみな、

エジプトを治めるためのトレーニングであった。意味のある無駄のない13年間だったのである。さらにヨセフが総理大臣になることによって、やがてヤコブ一族が激しい飢饉から救われ、エジプトでイスラエル民族を形成することになる。つまりヨセフの生涯は、イエス・キリストに至って成就する救いのご計画に組み込まれていた訳である。ヨセフは位人臣を極めながらも、自分の功績ではなく、神がして下さった、一切が神の恵み、神のおかげであると感謝して、あくまでも神に引き上げられたことを忘れなかった。

結論

順調なときは自分が努力したからだ、心掛けが良かったからだ、忍耐したからだと考えやすい。順調なときでも高慢にならない秘訣は、滅びに向かう人生から引き上げられたことを思い出し、「神の恵みによって、わたしは今日あるを得ている」(1コリント15・10)と、神に栄光を帰することではないか。神の知恵をいただきながら家を治め、仕事に励み、人と関われれば、神と人ともに喜ばれる。うまくいっているときこそ、神の前には何者でもないことを思い起こそうではないか。

研究資料

(宮澤清志)

絶対的に権力を持つ王政に、囚人の声が届き、王は王朝と国政の担当者としてヨセフを直ちに採用する。「われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか」。

テキスト

37 目になかった 新共同訳では「感心した」とある。パロとその家来たちは、これまでヨセフが語ってきた夢の解き明かしの重大性を考えた。今、目の前にいる人物がヘブル人の奴隷であること、そして今まで獄屋につながれていた人物であることはすっかり忘れられている。

38 神の霊 これはパロの言葉であるから、ここでいう「神」は、おそらくは多神教の神のことを指していたと考えられる。しかしパロは、これまでのヨセフの夢の解き明かしと英明な助言のうちに、ヨセフの上に働かれる超自然的な神の存在を見たのではなからうか。

39 賢い 「手腕がある」という意味である。このような管理能力という点ではヨセフは最適であると、パロやその家来たちは納得したのである。

40 あなたはわたしの家を治めてください ヨセフに与えられた位は、パロ自身の代理であり、総理大臣であり、また王宮を治める宮内大臣としての地位も兼ねていた。しかし、「わたしの家」を限定的にとらえる立場もある。その場合は、ヨセフはエジプトの穀物倉の監督と、また王の直轄地の監督として立てられた程度の地位となる。

あなたの言葉に従う 「従う」を直訳すると「敬意を表す」という意味になる。この言葉のものと意味は「口づけをする」という意味であり、これは、当時の習慣であった「敬意を表す口づけ」を意味しているものと推測できる。

42 45 ヨセフの大臣としての就任式の様子が描かれる。 ヨセフに対する個人的な夢(37・7、9)とパロに対する公の夢(41・2・7、17・24)とを成就する神によつて、これから先の事態はもたらされる。パロもヨセフもそのことを受け入れる。だからパロもヨセフをことさらに説得することもなく、またヨセフも抵抗したり、あるいは説得を必要としたりはしない。言葉はもう必要としないのである。

42 指輪 新共同訳では「印章のついた指輪」とあり、

王印の刻み込まれた指輪のことであろう。この印は、王の書状に押す印としての役目をもっていて（エステル3・12）、これは王の權威をもった指輪である。ただし、これは必ずしもヨセフひとりに託されたものではない。**亜麻布の衣服** 宮廷や法廷などで着用する衣服。**金の鎖** 新改訳や新共同訳では「金の首飾り」。王に重んじられていることを表すしるしとして早くから用いられていたようである。

43 自分の第二の車 「第二の」とは官職。すなわちここではパロに次ぐ者、エジプト全土の中でパロに次ぐ地位であることを主張するものであろう。**ひざまずけ** 新共同では「アブレク（敬礼）」とある。新英訳「道をあけよ」、シュパイザー「気をつけよ」など、確かな意味は不明であるが、エジプト絵画に描かれた礼儀作法を表しているという説がある。

44 ヨセフの知恵に対するパロの絶大な信頼を表した言葉であろう。

45 ザフナテ・パネア パロが与えたヨセフのエジプト名。外国人にエジプト名を与えることはよくあることであつたようである。この名の意味は不明であるが、「神

は語ったので、彼は生きる」「物事を知っている者」など、様々な説がある。**オン** 太陽神ラー礼拝の中心都市。その祭司はエリート中のエリート。

46 三十歳 ヨセフの年齢が記録されている。ヨセフ物語は、ヨセフが17歳の時から始まる（37・2）。その後、13年を経過してヨセフはエジプトの宰相となる。その後更に9年の時を経て、ヨセフが17歳の時に見た夢が実現する（45・6）。創世記の族長の物語は、アブラハムに対する約束とその成就（12・4、21・5）、ヤコブのラバンのもとでの長い忍耐（31・41）と、ヨセフの非常に長い忍耐を要する物語でもあった。しかし、最終的にはその約束は成就され、いずれも豊かに結実した。**エジプト全国をあまねく巡った** ヨセフ自身がこの国を管理するために労を惜しまず行つたことを示す。

47 **49** パロの夢に見た、最初の7年の豊作の様子が描かれる。主がパロの夢を通して示された事は、すべて間違ひなく成就していった。従つて、そのための対応策も滞りなく進められた。エジプトの各地に倉が置かれ、食糧が蓄えられることになる。詳細は34〜37節参照。

参考図書 8月17日分に同じ。

聖書

創世記41・37～49

タイトル

聖霊に導かれる生涯（ヨセフ物語③）

暗唱聖句

われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか。

創世記41・38

目標

聖霊を宿し、聖霊に導かれる生涯の幸いを覚える。

導入

（松浦みち子）

先週は、ヨセフが牢屋に入れられたお話しでしたね。ヨセフは牢屋の中でも神様に信頼したので、神様がヨセフと共にいられて守ってくださいました。ヨセフはいっまで牢屋で過ごすのでしょうか。出て来ることができるのでしょうか？

パロ王様の夢

ヨセフはある日、思いがけず牢屋から出されることになりました。日の射さない薄暗い地下牢に、パロの王様の使いが息もつかせぬ勢いで「ヨセフはどこだあー」と突然やってきたのです。「ここにおりますー!」と、答えるやいなやヨセフは牢屋から出され、ひげをそり、新しい

服を着て王様の前に立ちました。「ヨセフ、おまえは聞くとところによると、夢を説き明かすことができるそうだね」と、王様が尋ねると「いいえ王様、わたしではありません。神様が教えてくださるのです」と、きっぱり答えました。

「そうか!」王様は悩ましい顔をしながら見た夢の話をしました。そして「誰ひとり、わたしにそのわけを示す者がいない。ヨセフ、お願いだ。どういうわけなのか教えてくれ」。ヨセフは答えました。「王様、この夢は神様がこれから起きることを教えてくださったのです。七頭の牛は七年間のことです。これから七年間は畑で野菜や麦が大豊作となります。けれども、その後の七年間は雨が降らず、飢饉となります。ですから王様、賢い人を大臣にして七年の豊作の間にたくさんさんの食糧を蓄えておくといひでしょう。そうすれば、この国は飢饉で滅びることはないでしょう」。

大臣になったヨセフ

ヨセフの説き明かしを聞いた王様とすべての家来たちは皆、ああ、そうなのか! と感心しました。王様は家来たちに、「神の霊をもつこのような人を、ほかに見つけ

ることができるだろうか」と言い、ヨセフの方を向いて、「ヨセフ、神様があなたにこれらのことを教えられたのだから、あなたのように賢い人はいない。あなたをわたしの宮廷の責任者とする。わが国民は皆、あなたの言葉に従うでしょう。ただ王の位にあるということだけで、わたしはあなたの上に立つ」と言いました。パロはさらにヨセフに「わたしはあなたをエジプト全国のかさとする」と言い、自分の指輪をはずして、ヨセフの指にはめ、亜麻布の衣服を着せ、金の首飾りをヨセフの首にかけました。そして、ヨセフを王の第二の車に乗せると、「ひざまずけ」と人々に呼ばわらせ、ヨセフをエジプト全国のかさとしました。さらに王様はヨセフにこう言いました。「わたしはパロである。あなたの許しなしには、エジプト全国で、だれも、手足をあげてはならない」。

溢れる祝福の裏り

パロはヨセフにザフナテ・バアネという名を与え、祭司の娘のアセナテを妻として与えました。奴隷として売られてきたヨセフにとってエジプトは天涯孤独な地でしたが、やがて二人の子も与えられて、神様はヨセフに家庭の喜びを与えてくださったのです。

ヨセフがパロ王様の前に立った時は30歳でした。神の知恵と力に満たされたヨセフはエジプト全国をくまなく巡回し、国造りに励みました。パロ王様の見た夢のように七年の豊作のあいだ、大地は豊かな実りに満ち溢れ、蓄えられた食糧で満ち溢れ、海の砂のように多く蓄えたのでついに量りきれなくなつて量るのをやめるほどでした。

これらは、夢物語でなく、エジプトの歴史に残る実際の出来事です。奴隷がエジプトの王位に次ぐつかさとなつて国を支配する！ 薄暗い牢の中で過ごしたヨセフの人生に、電光石火のたとえのように、起こったできごとでした。まさに、神ご自身の業でした。

長い人生に何が待っているか誰もわかりません。出口の見えないトンネルを通るかもしれません。あなたは気付かないでしょうが、お母さんのお腹の中にいる時から神様はあなたを見ておられるのです。神様を信じて神様と共に歩みましょう。きっと、神様はあなたを祝福され、幸福な人生を歩ませてくださるでしょう。

♪主イエスとともに♪（ふ90）

聖書 創世記45・1～15

テーマ ヨセフ④ 最善に導かれる神

序論

(石田高保)

今日の個所は、ヨセフ伝の圧巻である。いかなる文豪もこのような展開と結末を創作することはできないだろう。事実の重みとそれを導かれた神のストーリーに圧倒される。しかしヨセフのように神様とつながって歩むとき、私たちの生活と人生にも起こり得ることである。

一、和解の準備

兄たちは食料をろばに積み、エジプトを出発した。ヨセフは受け取った穀物の代金を兄たちの袋に入れさせ、ベニヤミンの袋にはヨセフの銀の杯も一緒に納めさせた。これは兄たちがベニヤミンをどう取り扱うかを試すため。彼らが町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは僕に彼らの後を追ひ、銀の杯を捜させる。兄たちは全く身に覚えのないことなので当惑する。それぞれの袋が調べられ、なんとベニヤミンの袋から銀の杯が出てきたではないか。ヨセフの所に引き返した兄たちは、またもヨセフの前にひれ伏す。ユダは「神がしもべらの罪をあばかれました」(44・

16)と罪の自覚に導かれている。全員が奴隷になることを申し出るが、ヨセフは杯が見つけれられたベニヤミンだけが奴隷になればよいと言う。ユダは今日までのいきさつを述べつつ、自分は父にベニヤミンの身の安全を保証してきたこと、もしそれがかなわないなら、自分は生涯その罪を負い続ける覚悟であると語る。ユダの「どうか、しもべをこの子供の代りに、わが主の奴隷としてとどまらせ…父が災いに会うのを見るに忍びません」(44・33～44)という嘆願には心打たれる。

ヨセフはこの一言を聞いてどんなに感動し、満足したことだろうか。もうこれ以上、兄たちの心を試す必要はない。ついに彼は「自分を制しきれなくな」り、「声をあげて泣き、(わたしはヨセフです)と自分の身を明かした。自分たちが売り飛ばしたヨセフが生きていたこと、奴隷のはずのヨセフが目の前にいる総理大臣その人であることの事実が気が遠くなった。同時にヨセフから復讐を受けるのではないかと恐れた。ヨセフは言う「神は命を救うために、あなたがたより先にわたしを遣わされたのです」。後年、彼は同じようなことを言っている。「あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変らせて、今日

のように多くの民の命を救おうと計られました」(50・20)。ここでヨセフが兄たちに復讐せず、かえってやさしく慰めているのはなぜか。

二、和解の成立

ヨセフは神の約束を信じたイサク、ヤコブの生涯を見て育った。だからどんな苦しみの中にあっても、神はその約束を成就されることを知っていた。私たちは苦しみに遭うと、神が真実でないかのように思いがちである。見えるところの人生は織物の裏側のようなもので、どんな柄かわからないが、出来上がった織物を表から見ると、絵柄が完成している。私たちの人生を支配しているのも運命ではない。また兄たちのような悪巧みや憎しみが支配するのではない。さらに人間の計画が支配するのではない。(それゆえわたしをここにつかわしたのはあなたがたではなく、神です)と言ったように、私たちを導いているのは神であり、私たちそれぞれに神の愛の計画が用意されている。しかし自動的にそれに与るのというのではなく、意識的に神の計画に協力するのである。「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知って

いる」(ローマ8・28)。

恵みというのは、取引ではなく、ギブアンドテイクでもなく、片務的に与えられる神の贈り物である。奴隷に売られたヨセフが、めぐり巡ってエジプトの宰相となり、周辺諸国に対しても祝福となるというのは、まさに恵みであった。ヨセフはこのことを知るゆえに、兄弟に対して復讐ではなく、恵みをもって臨むことができた。神はヨセフをエジプトに送ることによってヤコブとその一族を救い、大いなる国民としてとされた。ヨセフはその神の計画を悟ったゆえに、兄弟の罪を赦(ゆる)めたのである。

結論

さて私たちの生活と人生にも神様は最善に導こうとしておられるはずである。しかし最善でない選択肢も少なからずある。あとにならなければ最善とわからないこともある。しかしどれを選ぶかは私たちにかかっている。自分の人間的な思いやこの世からの圧力もある。物事の選択に当たってはまずは祈りをもって主の声を聴き、聖書から導きを求めよう。またひとりだけで決断するのではなく、できるだけキリストのからだである信仰の仲間からも知恵を借りよう。それは主の最善を選び取る上で安全な道でもある。

研究資料

(宮澤清志)

4つの主日にわたって眺めてきた「ヨセフ物語」もいよいよクライマックスを迎える。

テキスト

1 自分を制しきれなくなった このような感情の乱れはこれで三度目(42・24、43・30)。前回までと異なり、ここでヨセフはエジプト人の従者を退出させる。ヨセフがこれから家族に自らの素性を明かすための行為。

3 父はまだ生きながらえていますか ヨセフは父ヤコブが生きていることを知っているはずであるが(43・27、28)、「生きている」ということは、健康であること、幸福であることをも含んでいる言葉なのである。

4・8 この個所は、ヨセフ物語全体の肝である。 この個所でヨセフは、「あなたがたは」と、繰り返し兄たちの関与を主張する。ヨセフは兄弟たちのしたことを決して軽視することはない。事実をありのまま兄弟たちに伝える。同時に「神は」と、「あなたがた」の背後に神が摂理のみ手を伸ばして働いておられることを指摘する。兄たちの「悪」の背後には、神の「摂理」があったのである。

4 あなたがたがエジプトに売った 兄たちがしたこと
を思い起こさせる意味を持つ。同時に驚き恐れ(3)で
混乱し、狼狽した兄たちを安心させるには非常に適切な
言葉でもあった。

5 神は命を救うためにわたしをつかわされた 神の
摂理が働かれていることを示す個所のひとつである。一
方では人間の誤った働き(と自然の見通しのきかない働
き)があり、他方では神の完璧な意志がある。その中で
も神の意志にのみ私たちは注目すべきである。

6 耕すことも刈り入れることもない 飢饉であること
は、耕作をしているにもかかわらず収穫のないことを指
す。必ずしも耕作を放棄しているわけではない。

7 あなたがたのすえ 新改訳や新共同訳では「残りの
者」と訳されている。この言葉は、英語のいくつかの訳
では「レムナント」という言葉が用いられている。この
「レムナント(残りの民)」の思想は、旧約聖書の一貫し
たテーマである。ノアの洪水の物語は、人類の新しい出
発のために救出された神の召しであり、アブラハムの物
語もバベルの塔の混乱を乗り越えてすべての人の祝福の
基となるための神の召しであった。そしてヨセフの救出

も残りの者の救出のための神のわざであった。

8 パロの父 大臣や高位の役人に認められた称号であろう。パロに対する父親的な助言を求められる人としての意味もあったであろう。王の顧問、相談役。

9～13 ヨセフの父への伝言の言葉。

9 急ぎ上って これまでは、あまりの出来事に驚き恐れて(3)現実のものと思われなかったであろう兄たちを、現実の世界へと引き戻すには必要な言葉だったであろう。同じ言葉は13節にも繰り返されており、ことの緊急性をうかがわせる。

10 ゴセンの地 エジプトの遺跡としては場所の特定はされていない。しかし、聖書中に推測できることはいくつかある。この地は、この節では「わたしの近く」であるとされており、また同じ創世記47・11には「ラメセスの地」と呼ばれていることから、王の都から遠くなく、また「よい地」(47・6)とされていることから、ナイルのデルタの東側にあったとされている。

11 ききはなお五年つづきますから： ヨセフは、飢饉がまだ初期の段階にあり、このままではヤコブもその家族も生存できないと判断する。それゆえヨセフは「急

ぎ」という言葉と共に、その計画の確実な実現を図ることに焦点をあわせているのである。なお、13節までのヤコブの要請は、16節以下のパロの命令によって裏付けられている。

14～15 ヨセフ、兄弟たちと語り合う。 ヨセフは末の弟ベニヤミンとは首を抱いて泣いた(14)とある。またベニヤミンもまたヨセフを抱いて泣いたとある。この抱擁は、激情を含んだ表現である。また兄弟たちはヨセフと語った(15)とある。具体的な内容には触れていない。ただ、これまでの二十年あまりの時の流れを考えると、この間の出来事を分かち合ったとも考えられる。

また、15節のヨセフと兄弟たちとの接触の中で、抱いて泣いたのはヨセフであって、兄弟たちの反応は記されていない。「感動の対面」を果たしているのはヨセフとベニヤミンだけであると推測できる。兄たちは素直に感情を表現できないのかもしれない。これまでのヨセフの言動や自分たちがヨセフに対してした行為、あるいは彼らに対するヨセフの態度に何かひっかかるものがあるのかもしれない。

参考図書 8月17日分と同じ。

聖書

創世記45・1～15

タイトル

最善に導かれる神（ヨセフ物語④）

暗唱聖句

それゆえわたしをここにかわしたのは
あなたがたではなく、神です。

創世記45・8

目標

摂理の御手で最善に導かれる神を信じる。

導入

（松浦みち子）

今日はリーダーですね。夏休みも終わり、いよいよ今年後半のスタートの時です。心も体も強められて元気に出発できるように祈りましょう。

エジプトの大臣として活躍するヨセフのもとに思いがけない人たちが訪ねて来ました。いったい誰でしょう？

エジプトにきた兄弟

ヨセフの生まれ故郷であるカナンでも、エジプトと同じように飢饉で苦しんでいました。エジプトに行けば食糧が買えるという噂を聞いたお父さんのヤコブは、お兄さん達をエジプトに行かせました。

まさかエジプトの大臣がヨセフだとは夢にも思わないお

兄さんたちは、「わたしたちはカナン地方から来たものでございます。どうか食糧を売ってください」と地面に頭をすりつけてお願いしました。ヨセフはすぐに兄たちだと気づきましたが彼らは気づきませんでした。そのとき、ヨセフは子どものころ、兄たちについて見た夢を思い出しました。ヨセフは「お前たちは、回し者だ。この国のすきをうかがうために来た者だ！」と、わざと荒々しく言いました。「いいえ、わたしたちは決して怪しいものではありません。カナンに住む父親と12人の兄弟です。末の弟は、今、父のもとにいますが、もう一人は失いました。」「お前たちが回し者でないという証拠に、末弟を連れてこい。それまで牢獄に監禁しておく」。やがて同じ母から生まれたベニヤミンが兄に連れられてヨセフのもとに姿を現しました。ヨセフは彼らとのやり取りを通して、お兄さんたちの心が変わえられ、父をいたわり、弟を慈しむ者になっていることを知って胸がいっぱいになりました。

身分を明かすヨセフ

ヨセフは自分の気持ちを抑えることができなくなり、そばで仕えている者たちに「みんな、ここから出て行ってくれ」と叫びました。誰もいなくなってから、ヨセフは自分

の身分を兄弟たちに明かしました。そして我慢できずに声をあげて泣きました。「お兄さん、わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか」。兄弟たちは驚きのあまり、ただただヨセフを見つめて立ち尽くしているばかりです。

和解と神のご計画

「どうか、もっとそばに近寄ってください。」「わたしはあなたがエジプトへ売った弟ヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神様がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。飢饉はまだ続きます。神様がわたしを先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの子孫を残すため、また大いなる救いをもってあなたがたを生きながらえさせるためです。わたしをここに遣わしたのは、神様です。神様がパロの大臣として、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者とされたのです。さあ、急いでお父さんのもとへ帰って、伝えてください。『息子の子ヨセフがこう言っています。神が、わたしを全エジプトの主としてくださいました。ためらわずに、わたしのところへおいでください。そしてゴセンの地

域に住んでください。そうすればあなたも、あなたの子らも孫たちも、羊も家も牛もそのほかすべてのものも、わたしの近くで暮らすことができます。飢饉はなお5年つづきますから、あなたも、家族も、その他のものも、みな困らないように、私はそこで養いましょう。』さあ、兄さんたちもベニヤミンも、自分の目で見てください。エジプトでわたしが受けているすべての栄誉と、あなたがたが見たすべてのことを父に話して、急いでここに連れてきてください。こう言い終わるとヨセフは弟ベニヤミンの首を抱いて泣きました。また、他の兄弟たちとも和解し、互いに抱き合い語り合いました。やがて、父ヤコブはヨセフのもとに身を寄せ、ヤコブ一族総勢70名はエジプトで暮らすように導かれたのです。時に父ヤコブは130歳でした。

神様のご計画は、人の思いを超えてなんと素晴らしいことでしょう。夢見る少年ヨセフは、兄たちの反感を買う態度で夢を語りました。しかし、今ではすっかり碎かれ、自分の願いや思いでなく、神のみこころを第一とする者に変えられ神に用いられました。ハレルヤ！

♪しゅにしたがうことは♪（こ改119、こ53、ホ87他）

聖書 マタイ9・1～8 テーマ 罪を赦すお方

序論

(福井文彦)

この箇所^{この箇所}の出来事は、「中風の人のいやし」と呼ばれています。しかし、ここで真に問題にされていることは、イエスが単に病をいやすことができるだけでなく、罪を赦す権威^{ゆゑ}を持っておられることです。並行記事のマルコ2・1～12、ルカ5・17～26をも合わせ見ながら進めていきます。

一、罪の赦しの宣言

イエスは、カペナウムのある家で教えておられました。そこには大勢の人々が集まり、家の入り口までいっぱいになっていました。そこへ一人の中風の者が、四人に運ばれてやって来ました。ところが、戸口までも大勢の人で、イエスに近づくことができなかったのです。

そこで、家の外側から屋上に上がる階段をのぼり、屋根をはいで大きな穴をあけました。家の中にいた人々に天井から突然ばらばらと土が落ちてきました。すると、中風の者が床のまま吊り降り降ろされてきたのです。そこに

は、中風の者が横たわっていて、屋根からのぞいている人たちは哀願するようにイエスを見ました。

するとイエスは〈彼らの信仰を見て、いきなり〈子よ、しっかりとしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ〉と宣言されたのです。〈彼らの信仰〉とありますから、中風の者を運んで来た四人の人たちの信仰も含まれています。しかし、肝心なのは中風の者の信仰です。何よりも彼の信仰を見て、イエスは罪の赦しを宣言されたのです。

二、「冒瀉^{ほうて}」という批判

ところがイエスが罪の赦しの宣言をされると律法学者たちは、心の中でこうつぶやきました。〈この人は神を汚している〉と。というのは、律法学者たちは罪を赦すことができるのは神だけであると考えていたからです。彼らはイエスが神であることを認めていませんでした。ですから、神以外の者が罪を赦すなどとは、とんでもない罪だと思ったのです。

当時のユダヤ社会では、病気はすべて罪の結果である^{と信じられていました}。そこで病気にかかるのは、他の人よりも罪深いからだと考えていたのです。これは、全く聖書的ではなく(ヨハネ9・1～3参照)、イエスは、

こうした因果応報的な考えを受け入れておられませんでした。

それにしても、どうしてイエスはここで罪の赦しを宣言したのでしょうか。他の病人たちにしたように、ただちに手を差し伸べて彼を立ち上げさせることをどうしてもしないのだらうと、人々は思ったことでしょう。

しかし、この個所で最も大切なことは、罪こそが人類にとつての根本問題であり、その解決のためイエスが来られたということなのです。

三、どちらがたやすいか

そこでイエスは「あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか」と質問されました。私たち人間の間では、罪が本当に赦されたかどうか、その結果はだれにも見えません。すなわち確かめようがないので、口からの出まかせであっても言うことができます。しかし、中風のいやしは、起きて歩くことによってすぐにわかります。ですから、「起きよ」とは安易に命じることではできないのです。私たち人間にとつてはこちらのほうが難しいのです。

しかし実は、病気をいやすよりも罪を赦すことのほう

が、はるかに難しいのです。というのは、罪の赦しは、ただ神のみによつて与えられることだからです。そして律法学者はそのことを知っていました。そこでイエスは彼らにとつて難しいと思われていた中風のいやしをなさつたのです。

そこでイエスは、「人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と言つて、ただちに中風の者を立ち上げさせました。立ち上がった彼は、床を自らたたんで家に帰って行きました。律法学者は、イエスの罪を赦す権威に対して言い逆らうことができませんでした。この奇跡によつて、イエスだけが罪を赦す権威を持つておられる唯一のお方であることが示されたのです。

結論

イエスだけが罪を赦す権威を持つておられます。そして中風の者だけでなく、だれもが罪の赦しを必要としています。イエスを信じ近づくと、中風の者のように罪が赦され、起き上がり、喜び勇んで歩む新しい人生が始まるのです。

研究資料

(中島啓一)

テキスト

ここでの中心主題は、罪のゆるしの權威についてである。病を癒^いすことができるイエスは、すべての病や苦難の根である罪を滅^いぼし去ることがおできになる（病と罪の關係については後述を参照）。罪を滅^いぼし、罪のゆるしを人に与えることこそがイエスの本当の使命であり、それは十字架上で達成されるものであった。十字架なくして罪のゆるしはなく、罪のゆるしなくして本当の癒^いしもない。イエスは罪をゆるす權威を持つ者として、神の国の到来を宣言し、本当の救いへと人を招かれたのである。

テキスト

2 人々が中風の者を床の上に寝かせたままでもとに運んできた マルコやルカでは、四人の者がこの病人を運んできたこと、そして群衆のためにイエスに近寄ることができなかったので、屋根から床ごとつりおろしたことが記されているが（マルコ2章、ルカ5章）、マタイはそれらの記述を省いて、罪のゆるしに焦点を絞っている。彼らの信仰 イエスの癒^いしの力を信じて、なんとしても

みもとに行こうとした彼らの信仰。運んできた者たちだけでなく、病者本人も含まれるであろう。マタイは、詳細を省きつつも、マルコやルカが記したその行動を念頭に置いていたと考えて良いだろう。子よ〔ギ〕テクノン〔わたしの〕子よ」という親しみを込めた呼びかけで、そこにはイエスの愛とあわれみが込められている。あなたの罪はゆるされたのだ 当時のユダヤ社会では、病は罪の結果であるという考えが蔓延^{まんえん}していたが（ヨハネ9・2参照）、因果応報の考えは全く聖書的でない（もちろん品行や不摂生の結果として病気になるといった因果關係は当然あり得る）。義人が病で苦しむこともあるし、逆に悪人が健康で長生きすることもある。それでは病と罪は何の關係もないかと言うと、そうではない。むしろ、すべての病と苦難の起源は、死そのものと同様に、罪がこの世に入ったときにさかのぼると言える。その意味に限れば、すべての病や苦難は罪の結果なのである。この個所の中心点は、罪こそが人類にとつての最も根本的な問題だということ、そしてその解決のためにこそイエスは来られたのだと言うことである。イエスは、十字架と復活を通して、罪の一症状に過

ぎない病や苦難にだけではなく、その根本である罪そのものに対して決定的・致命的な一撃を加えたのである。

3 神を汚している 律法学者たちは罪をゆるすことができるのは神だけと考えていた。洗神罪は基本的には神の名の乱用に適用されたが、その延長として、神になりすます、あるいは神にしかできないことをすることも冒瀆と見なされた。彼らは、それまでの数々の出来事からイエスの神的權威に気つくべきであったが、形式主義に陥っていたゆえ、靈的な感性が鈍っていたのである。

4 なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのか 神の名と主権を守ろうというのは建前であって、律法学者たちの動機は、ご自身に対して抱いているねたみなどの悪意であることをイエスは見抜いていた。

5 どちらがたやすいか 人間的な視点から見ると、結果が即座にあらわれ、効果がなければそれがすぐに露呈する病の癒しよりも、いかようにも言い逃れのできる罪のゆるしの宣言の方がたやすく思える。しかし本来の意味で難しいのは、言うまでもなく罪のゆるしである。**6-7 人の子は地上で罪をゆるす權威をもっていること**が、あなたがたにわかるために、ここにこのみわざの

目的がはっきりと示される。人の子（ダニエル7・13（14参照））であるイエスが罪をゆるす權威を持っていることを人々に知らせることである。目に見えない罪のゆるしがそこでなされたことの証拠として、目に見える癒しのわざが行われたのである。**地上で**は「終末の到来に先がけて」の意。イエスによって神の国は既にもたらされ、信じる者はその前味を享受することができる。人の子として来られ、終末の祝福をこの世界にもたらし始めたイエスは、その使命のために、罪のゆるしの權威を持つておられるのである。その權威によってイエスは、**起きよ、床を取りあげて家に帰れ**と命じた。**すると彼は起きあがり、家に帰って行った**この反応は、イエスの命令に即座に、そして正確に応答するものであった。

8 恐れ 畏怖の念は神的な顕現に対してなされる反応（17・6、28・5）。**こんな大きな權威を人にお与えになった神をあがめた**群衆は、イエスの神性を認めるには至らないが、彼に与えられた神的權威を認め、それを与えた神をあがめたのである。

参考図書 注解書 D. H. Hagner (Word), D. Hill (NCB), その他 The IVP Bible Background Commentary: NT.

聖書

マタイ9・1-8

タイトル

あなたの罪は赦された？

あなたの罪は

子よ、しっかりしなさい。

マタイ9・2

目 標

あらゆる祝福に先だって、罪の赦しの恵みを受け取る。

導入

(和田 治)

なみさんは高校生の頃、悩んでいました。「ああ、わたしの心には罪がある。いったいどこに持って行ったらこの罪は赦されるのかしら」。やがて、お友だちに誘われて教会に来て、十字架と復活のお話を聞きました。イエス様を信じ、罪が赦された確信が与えられ、初めて心が晴れ晴れとしたのです。良かったね！

今日は、イエス様だけが持つておられる「罪を赦す力」に注目しましょう！

あなたの罪はゆるされたのだ

イエス様はこれまで、いろんな所でたくさんの人たちの病気を治してこられました。ですから、カペナウムに帰られた時には、イエス様のもとに人々が続々と集まっ

てきたのです。やがて数人の人が、床に寝かせたままの中風の男を運んで来ました。「イエス様なら必ず治してください！」と信じていたからです。イエス様はこの人たちの熱心な信仰を見て、病人に、「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われました。

「なんてことばだ！ まるで、自分が神だと言っているようなもんじゃないか！」ユダヤ教の指導者のある者は、怒りで腹の中が煮えくり返る思いでした。

どちらが簡単？

イエス様は彼らの考えを見抜いて、おっしゃいました。「なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのですか。『あなたの罪はゆるされた』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが簡単だと思っているのですか？」

みなさんはどう思いますか？ 病気で体が動かない人に「起きて歩きなさい」って言うのは、むずかしいよね。だって、本当にそうさせる力があるかどうかは、すぐに目に見えてわかりますから。口先だけなら、「あなたの罪は赦されました」っていうのはとっても簡単、誰にでも言えます。でも、待つて！ 本当の意味で罪を赦すつ

て、いったい誰ができるのでしょうか？　そうです、ほんものの神様以外には、絶対に誰にもできないのです！

起きよ！

続いて、イエス様は「私が確かに、罪を赦す力を持っていることが、あなたがたにわかるために」とおっしゃって、中風の者にむかつて、「起きよ、床を取りあげて家に帰れ！」と言われました。

もしその通りにならなかつたら、神を汚すうそつきってことですね。でも、身動きもできず床のまま運ばれてきたこの人は、なんと、すぐに起きあがり、自分で歩き出したではありませんか！　皆は本当に恐ろしくなり、そして、こんなに大きな力をお与えになった神様をほめたたえました。

何のために？

イエス様は何のためにこのことをされたのでしょうか。イエス様が罪を赦す力を持っている真の救い主であることを、人々に知らせるためでした。目に見えない罪の赦しがそこで実際になされたことの証拠として、目に見えるいやしのわざが行われたのでした。この奇跡によって、イエス様だけが罪を赦す力を持つておられる唯

一のお方であることがはっきりしたのです、ハレルヤ！

まとめ

皆さんは、イエス様からどんな祝福をいただきたいでしょうか。勉強のことやお友達のことでも悩んでいますか？　病気がいやされたいと願っている人もいますでしょうか？　願いを込めてイエス様に祈ることは幸いです。でも、何よりもあなたにとって必要なことは、イエス様によってすべての罪を赦されることです。あなたははっきりとイエス様から「子よ、しっかりとしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言っていただけなのです。このことより大きな祝福は他にありません！　イエス様は何の苦勞もなく私たちの罪を赦されるのでしょうか。いえ、十字架で命を捨てて、私たちの罪の身代わりに罰を受けてくださったのです。だから、どんな罪でもお赦しくださるのですね。さあ、罪を赦す力を持つておられるたった一人のお方にお祈りして、すべての罪を赦していただくではありませんか！　すでに赦された人は、そのことを心から感謝いたしましょう！

♪ハレルヤ　ぼくは、すぐわれた♪（イン35）

聖書 マタイ10・1～16 テーマ 弟子たちの派遣

序論

(金井信生)

イエスは十二弟子を選びになり、派遣されました。派遣にあつての言葉は、今も私たち一人一人に与えられているものです。

一、主の選び

イエスが十二人を選ばれたのは、旧約時代のイスラエル十二部族に代えて、新しい神の国である教会を建てるためでした。一人一人が選ばれた基準は、人間的なものではなく、ただイエスが望まれたということだけです。

選ばれた十二人の特徴は、本当にばらばらです。頑固者や気性の激しい者、人を導くのが得意な人、物静かな人に、思ったことをすぐ口に出す人、ローマの手先の取税人、逆にローマに反発する熱心党、さらには、最後に主を敵に売り渡してしまう者まで選ばれていました。

しかし、一定の基準がないところが、後の教会にとって、大切なことでした。イエスが一人一人をかけがえ

のない存在と評価し、弟子として受け入れ、教え導き、また用いようとしてくださっていることをただ感謝して受け入れることが大事です。

また、自分には選ばれる資格がない、だめな人間だと思っているのに、今救われているとすれば、それは主が選ばれたのだから、何も心配する必要はないということです。イエスを中心とした交わりの中で互いを受け入れ、尊ぶ交わりを築いていくときに、小さなことで区別し差別することの多いこの世にあつて、イエスの望んでおられる新しい神の国が実現していくのです。

二、遣わされていく弟子たち

この時イエスは弟子たちに、まずユダヤ人に宣教するように命じられました。これはユダヤ人が、旧約の時代から救い主を待ち望んでいたからです。しかし、十字架と復活の後には、全世界に行つて福音を宣べ伝えなさいとイエスは命じられました。使徒行伝では、聖霊の導きに従つて遣わされ、あるいは、迫害のためにやむなく散らされていったこともありました。

どこに遣わされるにしても、携えてゆくのは福音です。

「天国が近づいた」とは、神の救いはあなたに必ず訪れるという希望のメッセージです。天の国の近さは、距離や時間のことではありません。神と私たちの関係における近さです。私たちが悔い改めて神に立ち帰った時から、神の国に入れていただき、神との交わりが与えられます。この救いは、私たちの行いではなく、ただ信仰により、恵みによって与えられるものです。ですからイエスは「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」とおっしゃられました。これが神の国の原則だからです。

また、弟子たちは質素な姿で遣わされていきました。それは、弟子たち自身が進まず、思い思いから解放され、神が必要な物を満たしてくださいという信仰に生きていたからです。そして出会う人々が、この世での富や名誉などの誤った期待を持たず、本当に求めるべきものが何であるかを示すためでもありました。

今も主からの使命と信じて宣教に遣わされる人もあり、家族の転勤などで引越す人もいます。いずれにしても、主が私をここに遣わされていると信じ受け止めるとき、福音宣教の門が開かれていきます。

三、平和の使者として

福音を伝える弟子たちは、訪れた家の平安を祈りました。「シャローム（平安がありますように）」とは、今もイスラエルで日常的に用いられる挨拶ですが、クリスチャンにとっては、単なる挨拶言葉ではなく、すべてを御手に治めておられる主に信頼し、またキリストによって神の前に平和が与えられている喜びに立った言葉です。

イエスは、派遣する弟子たちを受け入れない人がいることも知っておられます。挨拶したりお世話をしようとしても受け入れないばかりか、かえって反発するものもいます。しかし、福音にあずかった喜びをもって、どんな相手にも神の祝福を祈るのです。祈った祈りは決して無駄にならず、その平和はあなたがたに返ってくると約束しておられます。

結論

私たちは恵みによって救われて神の民とされ、改めてそれぞれのところに遣わされています。使命に立つて、主のもとに帰る日まで、主のわざに励みましょう。

研究資料

(金井由嗣)

文脈

十二弟子を宣教に派遣する記事である。マルコ6・7
 13、ルカ9・1～6に並行記事があるが、主イエスの
 派遣の言葉についてはマタイがもっとも詳しい。マルコ
 (3・13～19)とルカ(6・12～16)には十二弟子(使徒)
 任命の記事もあるがマタイはそれを載せず、派遣の記事
 では「十二弟子」はすでに「十二使徒」(2節)と呼ばれ
 ている。ルカでは他に72人の派遣についても記されてお
 り(10・1～16)、そこにも共通の内容が見られる。いず
 れの場合も弟子の派遣は主イエスご自身による巡回宣教
 に続いており、派遣の理由はそこで主をご覧になった民
 衆の霊的、実際の窮状である(マタイでは9・35～38)。
 それゆえ、主が弟子たちを派遣された第一の目的は人々
 に仕えさせることであって、彼らの訓練ではない。

テキスト

1 十二弟子 弟子(ギ)マセーテース)は教師の近くに
 ついて教えを受ける人を指す。2節では同じ集団が「十
 二使徒」と言い換えられている。使徒(ギ)アポストロス)

は動詞「派遣する」(ギ)アポステロー、5節)から派生し
 た名詞で、しばしば派遣者の権威を派遣先で代理する使
 者の意味で用いられる。優れた教師の周りに弟子集団が
 形成されることはよくあるが、主イエスの弟子集団は初
 めから権威を与えて「遣わす」ことを目的に任命されて
 いる点が他の集団とは異なっている(マルコ3・14～15)。
 汚れた霊を追い出し、あらゆる病氣、あらゆるわずらい
 をいやす権威をお授けになった「使徒」は派遣者の権
 威を派遣先で代表し、実行する。9・35における主イエ
 スのいやしのわざの代行である。

2～4 十二使徒の名前が列挙されている。マルコ3・
 16～19、ルカ6・13～16、使徒1・13にも使徒のリスト
 がある。接続詞「と」(ギ)カイ)で二人ずつが結ばれてい
 るのは、主が弟子たちを二人一組で派遣された(マルコ
 6・7、ルカ10・1)ことの反映であろう。マタイのリ
 ストはマルコとほぼ一致するが、マルコ・ルカが「マタ
 イとトマス」なのに対して本書ではマタイの名が後に記
 され、さらに他のリストにはない**取税人**の語が付加さ
 れている。著者マタイの謙遜を表していると見て良い。
 5～8 弟子たちに対する命令、派遣の内容である。イ

スラエルの家の失われた羊のところに行け 主はペンテコステの後にサマリヤ人や異邦人への宣教を計画しておられたが、まずイスラエルのメシアとしてユダヤ人に宣教する必要があった。マタイ15・24参照。『天国が近づいた』と宣べ伝えよ 使徒(アポストロス)の主要な任務はメッセージを伝えることであり、その内容は主ご自身が宣教していた御国の福音である(マタイ4・17、23、9・35)。マタイは「神の国」よりも「天国」という表現を多用する傾向があるが、実質的には「神の国」と同義である。「今、ここに」実現しつつある神の統治を表す。病人をいやし…悪霊を追い出せ いやしと悪霊に対する勝利は「御国の福音」とセットになって、神の国の到来を示す出来事である。

8後半〜15 派遣された者の生活についての教えである。働きに対する報酬は受け取らないよう命じられている。その一方、援助者がある場合には進んで援助を受けることによって働きに専念するように教えている。平安は〔ハ〕シャロームに対応する言葉。ユダヤでは普通の挨拶だが、主イエスは彼の弟子たちが訪れた家に「シャローム」を祈ることに特別な意義を持たせている。

16 以下、迫害について備えるよう勧告している。悪霊に対する決定的な権威と対照的に、「人々」は主の弟子に對して「羊に対する狼」のように危害を加えてくることが明言される。マタイ5・10〜12参照。この世で迫害されることは、キリストの弟子にとって不可避の「しるし」である。それゆえ、へびのように賢く、はとのように素直で あることが求められる。賢い(ギ)フロニモス、思慮深い)とは迫害を受けないようにうまく立ち回ることではない。花婿の来着に備えて油を用意しているおとめ(マタイ25・2)のように「大切な、守るべき事柄」をわきまえて保持することが勧められているのである。17〜23節の終末論的勧告を参照。「へび」はおそらく必要な時まで動かず静かに待つ姿を描いている(ノーランド)。素直(ギ)アケライオス)の原義は「混じりけのない」。迫害に際して純真な信仰を守り通すよう教えている。「はと」はここでは、目的地に向かって真っ直ぐ飛ぶ純真さを表しているのであろう。

参考図書 織田昭『マタイによる福音』、John Nolland (New International Greek Testament Commentary), David L. Turner (Baker Exegetical Commentary),

聖書

タイトル

暗唱聖句

目標

マタイ10・1～16

弟子たちの派遣

わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおかみの中に送るようなものである。

マタイ10・16

主に遣わされた者として生きる者となる。

導入

(松浦みち子)

みなさんはレオナルド・ダ・ヴィンチの絵「最後の晩餐」を見たことがありますか？（絵を用意する）。イエス様

を中心にして左右に12人の弟子たちが長いテーブルに並んでいますね。この人たちはイエス様が多くの弟子たちの中から特別に選ばれた弟子で、「使徒」という名を与えられた弟子たちでしたよ。

12使徒の名前

まず選ばれた12人の名前を紹介しましょう。ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、熱心党のシモンと

イスカリオテのユダです。「このユダはイエスを裏切った者である」と聖書に書かれています。

12使徒の選び

イエス様は多くの弟子の中から、なぜ12使徒を選ばれたのでしょうか？ それはね、イエス様がみんなの前に姿を現され神の国の福音を宣べ伝え始められると、多くの群衆が毎日毎日「イエス様！」って押し寄せてくるのです。その姿を見てイエス様は、「羊飼いのない羊のようにみな弱り果て、困り苦しんでいるなあ」と、かわいそうに思われ、その状態から人々を救い出すために、弟子たちをご自分の代理として遣わすことを決心なさったのです。そのために12使徒を選ばれたのです。

ある日、一人で山に登られたイエス様は、夜を徹して祈られ、12人を選び、自分の近くに呼び寄せ、「使徒」という名を与えられました。これには、特別な任務を与えられ遣わされる者という意味があります。イエス様は彼らに、汚れた霊を追いつ出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威を授けられたのです。選ばれた弟子はいい人だな人々だったでしょう。お金持ちで頭がよくて何でも完璧にできる人だったでしょう。いいえ、決して欠点の

ない100点満点の人たちではありませんでした。ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネはガリラヤ湖の漁師でした。マタイは取税人で、当時ローマ帝国に支配されていたユダヤの人たちから税金を取り立て、一部をごまかして自分のポケットに……、という不正を平気で行う人でした。だからみんなの嫌われ者でした。熱心党のシモンは反対に、ユダヤの国のためなら自分の命を捨てても惜しくないと思うほどの過激派でした。すぐカツとなる怒りん坊もいました。また、何でも疑ってかかる慎重な人もいました。イエス様は何もかもご存じで、さまざまな人を大切な働きのために選び、訓練し、用いようとされたのですね。しかし一番ビックリなのは、後にイエス様を裏切ってしまうイスカリオテのユダも選ばれたという事です。

派遣についての訓示

イエス様の思いは、山よりも高く、海よりももっと深いものだったのでしょうね。使徒たちを遣わす前に、イエス様は訓示を語られました。

①まず、イスラエルの苦しんでいる人々のところに行き「天国が近づいた」と宣べ伝えよ。

②病人を癒し、死人をよみがえらせ、悪霊を追い出せ。た

だで受けたのだから、ただで与えるがよい。

③財布の中にお金を入れていくな。旅行のための袋も着替えの下着も、くつも杖も持つて行くな。必要は神様がご存じだから、神様だけを信頼せよ。

などと命令をなさったのです。

現在に生きる私たちには、えっと思うようなご命令ですが、救いにあずかった者は、金品や名声にとらわれず、福音宣教のためにがむしゃらに捨て身で生きなさい、と教えられたのですね。

また、弟子たちが遣わされるところは、「羊が狼の中におかれるようなものだ」と、言われました。おとなしい羊は凶暴な狼の前ではひとたまりもありません。多くの困難や危険が待ち受けているのをご存じで、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさいと助言して下さいました。これは、聖霊による上からの知恵を求めなさい、必ず使命を全うさせて下さるという主へのゆるぎない信頼を持ち続けなさい、という助言です。

あなたもイエス様を信じ、弟子にしていただきましょ。う。そして働き人になれるよう励んでください。

♪12でしのなまえ♪（ふ13）

聖書 マタイ14・13〜21 テーマ 祝福されるささげ物

序論

(高橋頼男)

「パンの奇跡」については四福音書がこぞって取り上げています。この奇跡は、イエスのお働きの生涯における頂点を示すものでした。パンの奇跡、すなわち五千人の給食物語は、すべての人に感動的で、だれにも無条件に喜びをもたらした出来事です。へみんなの者は食べて満腹した」とありますが、やはり食べて満ち足りることの経験は記憶の中にいつまでも残るものなのでしょう。

この奇跡の起こりは、五千人を超える飢えた群衆を前にして、小さな取るに足らないもの、パン五つと魚二匹が主の前に持ってこられ、ささげられたことでした。

一、あなたがたの手で(16)

弟子たちは、これほど多くの飢えた人々の食事を準備することは、自分たちの手にはとても負えないと判断しました。そこで、群衆を解散させ、彼ら自身がそれぞれ食べ物を求めることを提案しました。この弟子たちの判断と提案は、この状況においてきわめて常識的なもので

した。いわゆる群衆の「自己責任」に委ねたのです。しかし、イエスのお考えは違っていました。イエスは「彼らが出かけて行くには及ばない。あなたがたの手で食物をやりなさい」と言われたのです。そこで、彼らが持っているものを探すと、パン5つと、干し魚が2匹ありました。しかも、これは少年がもっていたお弁当だといえます。彼らはこれらを数えて「それが何になりますか!」(ヨハネ6・9)と言いました。ここにはパン5つと魚が2匹よりほかに、自分たちの持てる物は、全く無に等しいことを認めざるを得ません。疲れ、飢えた大群衆の前に、弟子たちは何と小さく無力であったことでしょう。

二、それを、ここに持つてきなさい。(18)

弟子たちが途方に暮れていると、主は「それをここに持つてきなさい」と言われました。自分たちの持つてくるものを、いきなり人に与えるのではなく、まず、それを主のもとに持つて行くこと、主におささげすることを命じられました。主はその小さな貧しいものを受け取られ、御手に取って祝福されました。そして、主が祝福されたものを再び弟子たちの手に委ねられたのです。弟子たちはそれを群衆に配りました。そのとき、人々は食べ

て満腹し、満足し、残りのパンくずを集めると十二のかごに一杯になりました。

私たちのささげものがどのようにして主に用いられるのか、その過程を大切にしましょう。なぜなら、私たちの小ささ、無力さに、主の祝福とその全能が臨む時、私たちは主にあって大きな働きを担うことができるのです。

ひとりの少女が言いました。「小さなわたしだけでは、何も出来ません。しかし、わたしの手の中にある六ペンスと、そこに神の御手が加えられるなら、どんなことでも出来るのです！」

パウロも言います。「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができ」(ピリピ4・13)。

三、祝福されるささげもの

小さなもの、とるに足らないものであっても、主に小さくささげるとき、主はそれを手に取って、きよめ、祝福し、お働きのため、人々のために用いてくださいます。しかし、この小さなささげもの、「五つのパンと二匹の魚」は、どんなに小さくあっても、少年の持っているすべてであり、弟子たちが集めた全部であつたのです。

主が、「だれよりも多くささげた」と言われた、やもめの手に握られたレプタ二つは、宮にささげることが許された最少額でした。しかし、やもめの2レプタは、彼女の生活費のすべてだったのです(ルカ21・1〜4)。

主が祝福されるささげものは、適当なもの、余裕を残したもの、まして、余りものなどであるはずがありません。主が喜んで受け入れられるささげものは、小さくても、貧しくても、私の全てであり、私のベストであるはずです。わたしたちのささげもの、奉仕に対して、主は「それが、あなたのベストですか？」とやさしく問いかけられます。「あなたは……恥じることのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい」(Ⅱテモテ2・15)。

結論

わたしたちは、自分が主の働き人としてまことに小さく、卑しく、弱いものであることを知らされます。しかし、そのようなものを喜んで受け取り、きよめ、祝福して、御手の中で豊かに用いて下さる主を信頼し、私のベストをおささげしていきましょう。

研究資料

(宮澤清志)

四つの福音書に共通して登場する記事は、受難と復活の記事を除いてはこのパンの奇跡だけである(並行記事は、マルコ6・30〜44、ルカ9・10〜17、ヨハネ6・1〜14)。言うまでもないことであるが、受難と復活の記事はイエスの出来事のクライマックスである。では、なぜこの記事がすべての福音書に描かれているのだろうか。それはまず、この奇跡が弟子たちにとって非常に大きな出来事であったということである。それまでは個人的な癒しの奇跡であったものが、このような大群衆を前にしての、しかも大群衆のための奇跡へと発展してきたのである。そして次には、この奇跡の持つ霊的な意味の重要性の故である。ヨハネによる福音書では、この奇跡の後に「わたしは命のパンである」(ヨハネ6・35)と語られた。このパンの奇跡は、古来より様々な解釈がなされている(詳細は省略)が、「いのちのパン」であるイエスによって文字通りに行われたものである。

テキスト

このテキストは、大別すると二つに分けられる。13〜14節の「イエスのあわれみといやしの記事」と、15節以降の

「パンの供給」の記事である。

13 このこと この個所の直前に描かれているバプテスマのヨハネの殺害に関する記事のこと。バプテスマのヨハネの死は、イエスにとっては衝撃的な出来事であったであろう。注解者の中には、このヨハネの死をイエスの死の伏線ととらえる者もいる。**舟に乗って** イエスが向かった先は、ガリラヤ湖の向こう岸(ヨハネ6・1)であり、その目的は寂しい所へ行かれるためであった。

14 あわれんで マルコの並行記事では、この言葉の前に「飼う者のない羊のようなその有様を」(マルコ6・34)とあり、イエスがこの群衆をどのようにご覧になっているかをよく示す言葉として注目される(マタイ9・36)。**おいやしになった** マルコ6・34ではこの個所は「教えはじめられた」となっている。民衆に対するあわれみはイエスのいやしへとつながる。

15 夕方になった 夕食どきになってしまった、という意味が込められている。**群衆を解散させ、村々へ行かせてください** この言葉は、弟子たちの現状認識としては極めて常識的な判断だったであろう。しかし、ある注解者は、弟子たちがカナの婚礼の奇跡(ヨハネ2・1〜11)の出来

事を心にとめていたならば、このような言葉を出すことはなく、イエスに期待したであろうと述べている。そうではなくても、弟子たちがこの直前にイエスの手を通してなされたいやしのわざを覚えていたなら、やはりこのような言葉は出なかったであろうと考えられる。いずれにしても、常識にとらわれていた弟子たちには、目の前の主のわざが見えなくなっていたのであろう。

16 あなたがたの手で 前節の弟子たちの言葉に対して、イエスには他の考えがあった。それは、弟子たちがこの群集を養うことであつた。

17 わたしたちはここに、パン五つと魚二ひきしか持っていません この弟子たちの言葉は、やはり前節のように現実しか見えない弟子たちの言葉である。「しか」という言葉にそれがよく表れている。わたしたちは持っていないのである。しかしこの言葉は同時に、次節の弟子たちの行為によつてイエスの御業を引き出すという意味で、なくてはならないものだったともいえる。**パン五つと魚二ひき** ヨハネの並行記事を見ると、おそらくこれは少年のお弁当だったのではないかと推測できる(ヨハネ6・9)。このパンと魚は、当時の人々のごく普通の食物といわれており、

特にパン(ヨハネ6・9では「大麦のパン」)は当時の貧しい人々の食物であつた。

18 それをここに持ってください たとえ「五つのパンと二ひきの魚でしかない」と思ったとしても、主はそれを用いて御業をなされる。主は、いかなる献げささげものであつたとしても、神の国の御業のためには弟子たちが持つてきたものを喜んでお用いになるのである。

19 マルコの並行記事にみられる詳細(マルコ6・37-38) はここでは省略され、かわつて弟子たちが直接手渡した姿が強調されている。弟子たちにとっては、イエスの素晴らしい御業に直接関与できる、これ以上ない素晴らしい機会であつたのであろう。

20 十二のかご 十二弟子を指す数字であるとも、イスラエルの十二部族を指す数字であるとも考えられている。

21 女と子供とを除いて 当時のユダヤ社会では、納税と徴兵の義務を負っていた成人男性のみを人数として数えていた。マタイはそのような会衆に対して福音書を書いたの
で、このような表現となっている。女性と子どもを加えた実際の人数は、一万人とも二万人とも言われる。

参考図書 7月6日分と同じ。

聖書

マタイ14・13〜21

タイトル

5つのパンと2匹の魚

暗唱聖句

パンくずの残りを集めると、十二のかごに
いっぱいになった。 マタイ14・20

目 標

所有する物、また自分自身を、神に献げる。

導入

(松浦みち子)

♪ポケットの中にはビスケットがひとつ、ポケットをたたくとビスケットはふたつ、…そんなふしぎなポケットがほしい♪「ふしぎなポケット」の歌を知っていますか？ポケットをたたくたびにビスケットが増えるなんて、なんて素敵なポケットでしょう。

寂しいという

イエス様はヘロデ王がバプテスマのヨハネを殺したことを聞くと自分ひとりで寂しいところに行きました。しかし、群集はイエス様を慕ってどこまでも、どこまでも追いかけてきます。イエス様は、その人々をあわれんで病気を癒したり、助けられました。夕方近くなっても誰一人帰らうとせず、弟子が思い余ってイエス様に提案しました。「イエス様、ここは寂しい所でもあり、もう時も遅くなりまし

た。群集を解散させてめいめいで食物を買いに村々に行かせてください。」するとイエス様は言われました。「出かけて行かなくてもよろしい。あなたがたの手で食物をやりなさい。」「えっ！ イエス様、何て無茶なことを。五千人以上もいるのですよ」。弟子たちはイエス様の言葉に途方にくれるばかりです。そんなとき、一人の子どもが自分のお弁当を持ってきました。5つのパンと2匹の魚です。自分はい慢して、イエス様のお役に立ててもらおうと思ったのです。でも弟子たちにはそれが役に立つとは思えませんでした。「わたしたちはここに、パン5つと魚2匹しか持っていない。こんな大勢の人では何の役にたつのか。ああ、どうすれば、よいだろう…」。

5つのパンと2匹の魚

ところが、イエス様は5つのパンと2匹の魚を「ここに持つてきなさい」とおっしゃいました。そして群集に命じて、草の上にすわらせ、5つのパンと2匹の魚とを手にとり、天を仰いでそれを祝福し、パンをさいて弟子たちに渡されました。すると、あら、ふしぎ！ パンはさいてもさいてもなくなりません。魚も同様です。弟子たちは人々に、「さあ、好きなだけ食べなさい」と言いながら、パンと

魚を配りました。人々は驚きながら、大喜びでパンと魚を食べました。みんなは充分食べて、もうお腹一杯です。弟子たちがパンくずの残りを集めると12のかごにいっぱいになりました。

これはいったいどういうことでしょう。弟子たちは、5つのパンと2匹の魚を見たとき、こんなちっぽけなものでは何の役にも立たないと思いました。しかし、イエス様はこれを見たとき、無から有を生み出される全能の神様の力を信じ祈られました。神様には不可能がないことを知っておられたからです。「人にはできない事も、神にはできる」(ルカ18・27)。私たちが不可能なことにぶつかる時、それは神様の全能の力を知る絶好のチャンスです。100歳を越えても精神的に活躍しておられる日野原重明というお医者さんがいらっしやいます。いろいろとすばらしい言葉を語っておられますが、そのうちのひとつに「いつまでも自分に挑戦することをあきらめない」と言う言葉があります。日野原先生は、このように神様が自分を生かしてくださることを感謝してチャレンジし続けておられるのです。

残りのパンくずから学ぶこと

「余り物には福がある」という諺(ことわざ)があります。この残り

のパンくずから何を学ぶことができるでしょう。

第一は、神様の祝福は豊かなものだということです。けちけちしたものでなく、余りあるほど豊かなものだということです。89歳で召天した泉かよというおばあさん(松浦みち子先生のお母様)の口癖はこうでした。「私たちが献げるものはスコップいっぱいほどのものであっても、神様はダンブカーいっぱいにして報いて下さる!」。喜んで主のために献げましょう。たとえ小さな子ども小さなささげものであっても、主は祝し、神の国のご事業のために用いて下さいます。

第二は、持っていく所を明確にということです。パンも魚も子どもや弟子たちの手にある間は5つと2匹のままでした。しかし、イエス様の所に持っていくと奇跡が起こったのです。難しい問題も自分で抱え込んでいては、いくら知恵を絞っても解決されません。いつだって、イエス様の所にもって行くのです。「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけてくださるからです」(1ペテロ5・7 新共同訳)。

♪主イエスとともに♪(ふ90)

牧羊ひろば



広島栄光教会 伝道科・子ひつじクラブ

なんとかして幾人かを救うためである。

I「リント9・22

「ネクストワン (NEXTONE)」な宣教を私たちのCS活動で最上の一回、というものがあるとすれば、それは「来週」となります。ですから、それを目指している「写真」ですべてを察して下さい。

広島栄光教会は、5、6年前からは高齢化が目立ち、青年層以下がほとんどいない状態です。CS活動を盛んに行うのは、今繋がってくれている子どもたちがこれから

「私たちの神の家族になつてくれる事」を期待してです。そのために伝

道活動とサークル活動をしているのです。

広島栄光教会は現行の「伝道科・子ひつじクラブ(木)と(日)」とい



プロマイド

う形に致しました。それは、教会すべての活動を宣教にリンクしたものとしよう、教会を通して地域の子どもたちとよき隣人どうしになろう、という方向転換をしたのです。少なくとも、広島栄光教会のあるこの地域には適した考え方だ、と思います。



こひつじクラブ(木) 下校時



日曜日は現在、全体のファミリー礼拝と分級です。主に幼少の子女育成です。彼らが「教会は楽しい」と喜んでくれる事が家族伝道の尖兵となっています。

日曜日がファミリー礼拝であり、教会堂主体であるのに対し、木曜日に「伝道科・子ひつじクラブ」を二回、通学路と会堂でCS活動を致します。

捨てられるチラシはやめて、手製のラミネート加工された

「みことばカード」を40〜90枚を全学年の希望者に配ります。毎週、変化を持たせて準備するのは大変です。みことばと教訓、メッセージを受け取ってもらえるように工夫されたものです。



教会に来れる子どもたちには、聖書を開かせたり、



毎週、車で4、5人で行き、通学路にて車の後ろのトランクを「出店」のように工夫して何とか関心持たせて喜ばせられるように頑張っています。私たちは教会に来てくれる子どもを相手にする事よりも、出て行つて出会う子どもを相手にする事を選んだのです。

あさひが丘にある一つだけの日浦小学校339人のうち、私た

ちが出会えるのはその四分の一だけです。一つだけの通学路で限られた奉仕者と役割の分担上、これ以上はできません。1人がすべての子どもの声かけ役です。カードをもらう子どもの相手に2、3人に対応し、読ませて暗唱させ、意味や解説を1分強で行い、回転率を上げます。そして、居残った子どもにご褒美などを世話するのに1人です。こういう中から、家に一度帰ってから教会に来る子どもとの関係が生まれます。



作ったり、



お交わりしたり、

路上が「伝道、関係づくり」なら、教会では「決心、信仰育成」の場として子どもにイエス・キリストと福音、またネットとかで実物とか外の世界を具体的に提示します。それと、来た子どもはプロマイド撮影をして、写真と名前を会堂に掲示

し、祈祷会でみんなに祈っていただきます。

この町の子どもたちは活字よりビジュアルで見える方がよく入りますし、十字架のペンダントとか簡単なグッズづくりになら来る子が結構います。今年は「ホールディング・クロス」を大人と子どもで作ろうか、と検討中です。



遊んだり、



寝たり、

一人でも多く、子どもの名前と顔に繋がる事を追い求めます。入れ替わり立ち替わりに来る子どもたちで受け入れなくてはいけないのは、彼らも児童館を含め塾とかお稽古事で結構忙しいのと「木曜日」というのがまとまって遊べる貴重な曜日だということです。ですから、彼らのライフ・スタイルを尊重して「受け皿」に徹しています。また、40年もこの町に存在しているのに認知されていない現実や新興宗教や児童館

などから子どもが受ける嫌がらせにも立ち向かわねばなりませんでした。しかし、そういう中で、聞く耳を持つてくれてイエス・キリストの必要を理解し、「私はイエス・キリストを主と信じます」という信仰の告白をした子どもが、この活動に変えてからの累計で30〜40人ぐらいいますし、彼らは毎週ではないにせよ、クリスマスやイースター、ペンテコステには教会に自分たちで誘い合って来てくれています。



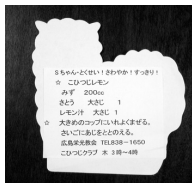
自由にして、



信じる子たちも、

そして、教会には彼らの「マイ新約聖書」があります。篤志家によって捧げられたものに記名してキープさせ、目次から自分で聞くトレーニングをしています。こうやって、やがての日に私たちの神の家族になってくれる時に備えているのです。

いつも、地域から来てくれている子どもの中の一人が、スタッフに自分から「クラスでいじめられている」事を相談してくれた事は、この時代には大きな成果です。事前にPTAの役員として「広島市のいじめの実態と対応」などの教育委員会でのクロージズな講演会への参加が許された者がおり、対応の現状を伺ったりして、「地域信用」を得る事を大事に考えています。必要があれば親たちの求めに応じて、こういう具体的な情報開示が出来る事も教会に求められている時代なのかと思います。教会が地域の中で求められる受け止められ方をするためには、エホバの証人と混同される方法、いちいち説明がいる類似行為とまったく違う別物へとこちらが方向転換する事で、「教会こそが強く明るい人格形成の主体の場」である事を示す必要があると思っています。



子ひつじクラブ（日）ファミリー礼拝

礼拝後には、



こんな楽しい教会、どこにもない。

ここ4、5年の間こうやって、地域の子どものカラーをもらう、奪うというものから、教会と共に「与える」側の子どもたちに変えてきました。

今の6年生の女子が自分の考案したレモネードをみんなに作って飲ませたい、と振舞ってくれたり、フェンスにある黒板に好きなように書かせたら、「イエスさま、ありがとう」「きょうかいはたのしいよ」と聞いたこと、理解した事を可愛く自由に描いてくれています。

「ネクストワン (NEXT ONE)」。私たちは未来の広島栄光教会を追い求めています。

(梅原 基)

救い主なる神を知る

マタイ・21

●キリストの教え

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

7月6日

心の中の罪

マタイ5・17〜32

同22節

13日

主の祈り

マタイ6・7〜13

同10節

●旧約②ノア・族長

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

7月20日

ノアの箱舟

創世記7・1〜24

同1節

27日

アブラハムの旅立ち

創世記12・1〜9

同1節

●キリストのみわざ

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

9月14日

罪の赦しの恵み

マタイ9・1〜8

同2節

21日

弟子たちの派遣

マタイ10・1〜16

同16節

28日

5つのパンと2匹の魚

マタイ14・13〜21

同20節

8月3日

アブラハムのとりなし

創世記18・16〜33

同17節

10日

天からのはしご

創世記28・10〜22

同16節

17日

ヨセフ① 神の計画

創世記37・5〜11

箴言16・9節

24日

ヨセフ② 共に

創世記39・19〜23

同23節

31日

ヨセフ③ 聖霊に導かれる生涯

創世記41・37〜49

同38節

9月7日
・ラリー・デリー
ヨセフ④ 最善に導かれる神

創世記45・1〜15

同8節

おわりに

『牧羊者』二〇一四年度第Ⅱ巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご労苦に感謝いたします。今回の教師養成講座は、神戸中央教会の田中恵子姉に「トさんび・・・まず、あなたがいきいき！」を書いていただきました。「牧羊ひろば」は、広島栄光教会のCSを紹介していただきました。今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

『牧羊者』のご購読・ご利用について

* 分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1～3年生向け)、C(主に小学生4～6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。
信徒局 教会教育室 ホームページ
<http://cs.jccj.info/>

* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。
神戸市兵庫区塚本通3-3-19
電話 (078) 575-5511
FAX (078) 575-6611

聖書講解	金井信生師	石田高保師	高橋頼男師
研究資料	福井文彦師	小平德行師	金井由嗣師
メッセー	宮澤清志師	水野晶子師	和田治師
ワーク(A)	中島啓一師	吉田美穂師	野勢かほる師
(B)	飯田勝彦師	山下大喜師	
(C)	鎌野幸師	田中裕明師	
中高科へのヒント	勝田幸恵師	後藤健一師	
子ども聖書日課	上森恭子師	金田ゆり師	小野淳子師
フラッシュカード	石田高保師	松浦あん師	金田ゆり師
み言葉カード	丹羽愛子師	後藤栄子師	
イラスト	丹羽遥姉		
ワープロ打ち込み	多田豊子師		
校正	長田栄一師	加藤清師	山田和幸師
	中島啓一師		

また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一四年度 Ⅱ巻

二〇一四年七月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団・信徒局 教会教育室
企画監修 日本イエス・キリスト教団・信徒局 教会教育室

印刷所 菱三印刷株式会社
電話 (078) 575-5511
FAX (078) 575-5511
電話 (078) 575-5511

* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み